



天保乙未新刻

俳諧字彙

掌手挑燈

江戸書林万笈堂英氏梓

俳諧手挑燈

目錄

一 四季之詞

但春三月に用し季有三ヶ月に通し季は右の下に●如此黒星を付置之四季共同断

并年中諸國祭礼

一 雜之詞

一 天象

一 簞物

一 降物

一 神祇非神

一 釈教非釈并兩部



戀コイ 非レ恋

迷ミ懷クワイ 非レ迷

居キ所ショ 非レ居

夜ヤ分ブン 非レ夜

衣イ服フク 非レ衣

生シヨク類レイ

旅リョ躰テイ

無ム常ジョウ 哀アハレ傷ケ

人ジン倫リン 非レ人

山サン類レイ 非レ山

水スイ邊ヘン 非レ水

食シヨク類レイ

植ウエ物モノ 同トウ 高タカ低ヒ

器キ財サイ 器キ財サイ付ツキ

支シ躰テイ 支シ體テイ付ツキ

書シヨク躰テイ

風フウ躰テイ

同ドウ字ジ 字ジ去キ之シ事ジ

同ドウ付ツキ字ジ之シ辨ベン

月ツキ之シ辨ベン

以ヒ呂ロ波ハ寄キ 手テ介ケ於オ系ケイ大ダイ藥ヤク

名ナ所ショ 名ナ所ショ付ツキ

火カ躰テイ

病ビョウ躰テイ

同ドウ別ベツ喙グヱ

賦フシ物モノ取トリ樣ヤウ

花ハナ之シ辨ベン

上の句篇序題にーと下の句曲流なるをその季

上の句曲流下の句篇序題もあり

詩の姿 六義也 風賦比興雅頌ト云

連歌俳諧ハ一首の上の句下の句と二句に分てはる

連句ハ上の句に下の句と附下の句に上の句と附くに附

哥仙ハ三十六句百員ハ百句する

發句

一季の巻既初發の上の句に春夏秋冬ホその時々の季を入切字を入やすうに句はつるべー 四季の初切字入やうあるの發句何れも末に載るよう味ひあるべー

脇

トモの句に發句と同ー季を結ひ發句のむとよめうけん文字あうにすべー 但時作連連とあるやうに連連とハおそくはやーとワあるべきたとハ泳生の發句に正月の季とてハ正月の發句に泳生の類も日あり一月ハ正月の季二月三月の季

發句

上の句より知くまうくをうげせ一句のたけさく發句の体にあうさうやうに正月にける季とすべー 二つきにける季とハ正月より二月をにけりハ季あり 四季の初切に 也は是量と付る六二つきにける季と

名残表十二句内十句ノ月

裏六句内五句ノ花 是をみほひの花と云

此十八句を一折

二折合テ三十六句也

百韵法

初表	八句内	七句ノ月	
同裏	十四句内	九句ノ月	十三句ノ花
二表	十四句内	十三句ノ月	
同裏	十四句内	九句ノ月	十三句ノ花

三表 十四句 右同断
 同裏 一折 十四句 右同断
 名残表 一折 十四句 右同断
 同裏 一折 八句内 七句ノ花 白ひの花と此裏月あり

四十四法

百負の初折ト名残の折ト合テ四十四句ナリ

七十二候

百負の初折ト二折ト名残の折ト三折合テ
右三折ニ月五ツ花三ツ法百負の候

源氏法

初表	六句	内	五句	月	十一句	花
同裏	十二句	内	七句	月	十一句	花
二表	十二句	内	七句	月	十一句	花
同裏	十二句	内	七句	月	十一句	花
名残表	十二句	内	十一句	月	十一句	花
同裏	六句	内	五句	花		

右三折二月五ツ花三ツ哥仙ノ法のこころ
 哥仙ニ折共四句をこころをのかり

米字 八十八句

初表 八句 内 七句 月
 同裏 十二句 内 七句 月 十一句 花

二表	十二句	内	十一句	月	十一句	花
同裏	十二句	内	七句	月		
三表	十二句	右	同断			
同裏	十二句	右	同断			
名残表	十二句	右	同断			
同裏	八句	内	七句	花		

右四折二月七ツ花四ツ

首尾

哥仙 初表 六句 五句 月 合テ十二句スラ云
 名残裏 六句 五句 花
 初表 八句 七句 月
 名残裏 八句 七句 花 合テ十六句スラ云

百員 初表 八句 七句 花 合テ十六句スラ云
 名残裏 八句 七句 花

裏白

六句カカ

表斗リスルヲ云

面白

十二句カカ
十四句カカ

裏斗リスルヲ云

三ツ物

発句股第三マテ三句スルヲ云

月

發句の振う方にかはるる時ハ初表の月かきん

花

發句の振う方にかはるる時ハ初裏のむとせは梅の横をむ乃
座小正を座

但一正むハ方らまハすべ
曰白ノトウリ初表の内ツカきん

發句

意ろくハ振も意ろくハすべ

同

祚祗ろくハ振も祚祗よう 有り無

同

尺歌ろくハ振も尺歌よう 有り無

同

速懐を考ホハ發句斗マをころくハ

同

引ありの時ハ才之を留メすくハ口付

會席クワイセキトハ

文彦フシゴイに祝儀エイサク祿茶カガリソウシヤクと柳字エウシヤク通と振傳ハ連中よう合

連句レンクトハ

身仙ミセン茶百負チヤヒツメホのり

一 帳トハ

数句より巻席の人教有る第一句ツキとあるなり

再 遍トハ

右の人教の句又一巻ノ世にあり

聯トハ

春夏秋冬之句ツキ及冬二句ツキ冬之句等此處
海々々々あり

吟 声トハ

句とある夢にこころあり

回 嶋トハ

春人より二句も之句も流るあとするなり

獨 吟トハ

かせんとも百せんとも春人よとするなり

両 吟トハ

日〜〜二人よとするなり之吟又吟も日〜〜

前 句トハ

我々付す人の句とあり

遅 吟トハ

句他りのおそきとあり

秀 逸トハ

中分れて能句とあり

巻 頭トハ

数句とあり

添 削トハ

一巻の点と字通へるとあり

印 点トハ

お速点の出来るとあり

批 言トハ

句の所き所と字通よりごうめをせんとあり

カ^{カヒツ}筆^{ヒツ}トハ 句の何れも雨をあらわして去滞するなり

ホウ^{ホウビ}美^ビトハ 句を和免するなり

筆^{ヒツ}句^クトハ 連中のかに枕^{シユ}筆^{ヒツ}よりする句はくまなきなり
枕^{シユ}筆^{ヒツ}句とツカを累してなり

ウチ^{ウチ}コシ^{コシ}キ^キラ^ラ 打^{ウチ}越^{コシ}嫌^キトハ 付てハラウ^{ウチ}か^{コシ}びして二句をならせしむ

二句去トハ 付句より二句をならせしむ

三句去トハ 付てハラウ^{ウチ}か^{コシ}びして三句をならせしむ

字去トハ 付句より三句をならせしむ

五句去トハ 付句より五句をならせしむ

夜^ヨ季^キや竹^{タケ}田^タの船^{フネ}ぢ^チ菱^{ヒシ}波^ハ月^{ツキ}松^{マツ}枕^{マク}煙^{ケリ}み^ミ句^クは
け分^ケ折^セ雨^{アメ}う^ウら^ラり^リてもみ^ミ句^クを^ヲ

七句去トハ 付句より七句をならせしむ

面去トハ 百負^{ヒツ}面^{オモ}の二面とてらと云^ク俣^{ヒツ}表^{ヒツ}も下^{シモ}面^{オモ}裏^{ウラ}も下^{シモ}面^{オモ}とツカ

打去トハ 表^{ヒツ}裏^{ウラ}の^{ウラ}も^{ヒツ}て^{ヒツ}に^{ヒツ}ハ^{ヒツ}カ^{ヒツ}ツ^{ヒツ}は^{ヒツ}し^{ヒツ}く^{ヒツ}見^{ヒツ}や^{ヒツ}み^{ヒツ}下^{シモ}面^{オモ}の^{ウラ}こ^{ヒツ}か^{ヒツ}なり

一ツ^{ヒツ}ニツ^{ヒツ}四ツ^{ヒツ}八ツ^{ヒツ}トハ 形^{ヒツ}種^{ヒツ}を^{ヒツ}に^{ヒツ}より^{ヒツ}て^{ヒツ}百^{ヒツ}句^{ヒツ}に^{ヒツ}い^{ヒツ}ら^{ヒツ}の^{ヒツ}と^{ヒツ}ツ^{ヒツ}カ^{ヒツ}敷^{ヒツ}なり

四ツ有りの音も四ツ有る 百子万の音も四ツ有る

名所 國名 在名等或ハ官名 苗字 人の名など呼ぶ

名所 水辺山類 水辺山類の躰と道

時々の草木菓旬段食物にあらはるる季ハ持たるる植物

魚鳥獸の喰物にあらはるる其季ハ持たるる生れ

のぐるぐる紋所或ハゆるゆるも季ハ持たるる躰ハのぐる

るる

秋 二度の進とも春 後とも秋

秋 二度あはれも春 後とも秋

三月 二度立れも春 後とも秋

春 二度あはれも春 後とも秋

古代より初表の内嫌ひ来る物の中に古人の名の事 聖賢

家武家或ハ歌人儒者医者町人百姓能役者職人等

の神祇教意無常迷懷衰傷等にあらはるる古人の名

表の句苦くかゝる尤在るごとくすべし同名所の事神祇釈
意無常述懐等にあるごとく名所並國名町那等表乃
内苦かゝる旅各体右同断

野々口立甫夜話云七十二候花信詩抄等之季俳諧取捨
有事也詩歌を引り同断七十二候の蜻蛉鳴ハ夏詩ハ鳴蛙
秋ハあけも連俳もに春之和哥に牡丹春花信棟春これ
らと連俳もて夏之此日うちとあはれとて詩歌候を引或は

詩書等まゝ異様ある季と見出し俳諧と錯乱すべし
當時の四季正月元朝より極月ハ至細々委く此書に記置
あり不通成る季不用

餘奥ヨキヤクの事古來いなきをみるといふのころより百員アケ乃
句に發句ありて常の折るごとく句を繼て表八句裏十
句月花并太嫌等常の百員の法式少も違へし
百員アケは次て續二百員或續三百員と呼也

下頁に一句の物も餘奥あり又出に

但し余奥くく二句去三句去の物ハ式に六五句去七句去面去折去物とあく三句去とす

俳諧手挑燈

○四季之部

春

大皞帝ダイコウ句芒神クモウ蒼天ソウテン東君トウキミ詔先ミコトノサキ

夏正カサマツ

正月

大簇律ダイソク立春節リシュン兩水中リウスイ初陽シュヨウ青陽セイヨウ

孟春メイシュン陬月ソウゲツ睦月ムツキ端月タンゲツ初冬月シュトウゲツ

正月シュウゲツ 左所月ササノツキ

元旦	元朝	元旦	元三
履端	改且	叔氣	聖節
南年	年始	年頭	改年
三元	新正	三朝	三始
若の表	復新	新春	子代の表
	徳代の表	四方の表	花の表
	若乃の表	けの表	若乃の表

若の表	若乃の表	けの表	若乃の表
元旦	元朝	元旦	元三
履端	改且	叔氣	聖節
南年	年始	年頭	改年
三元	新正	三朝	三始
若の表	復新	新春	子代の表
	徳代の表	四方の表	花の表
	若乃の表	けの表	若乃の表

若の表
 若乃の表
 けの表
 若乃の表

元旦
 元朝
 元旦
 元三

履端
 改且
 叔氣
 聖節

南年
 年始
 年頭
 改年

三元
 新正
 三朝
 三始

若の表
 復新
 新春
 子代の表

徳代の表
 四方の表
 花の表

若乃の表
 けの表
 若乃の表

年徳神
 年神
 年棚

朝拜 朝賀 奏賀 奏端 群臣
 天子の居る所に侍ひて
 天子の御前を侍ひて
 天子の御前を侍ひて
 天子の御前を侍ひて

屠蘇
 井開
 氷乃様
 腹赤贄

柶笛
 祇園前掛

不吉

鮎

惠方

楪

加ん

穂長

太箸

惠方棚

注連飾

初鶏

俵子

大服

田作

裏白

掛鯛

年男

齒朶

初霞

に

鏡餅

開豆

福藁

庭竈

数の子

齒固

初空

喰積

初曆

曆開

少

御慶

門松

但飾

元日

おこり

福壽州

二船

下

雑煮

蓬菜

い

福引

書

初夢

初飾

元日

おこり

福壽州

二船

下

雑煮

蓬菜

い

福引

書

初夢

言衣

宝引

若餅

大黒舞

舞初

毬打

葩煎

多ひひ色

彈初

ゆり

水飴

猿まじり

松囃

水祝

春駒

船乗初

吹初

を伎弓

をま矢

をこ板

蔵開

鳥追

松の内

船玉祭

店卸

初賣

初買

湯殿初

春永

歳旦開

節振舞

羽子

初芝居

一のちりりしつふりり
初程のちりりめい

懸想文

系つて初まふいりくの
懸想と封てまふし中

の意のよし
あしとあふ

馬乗初

ひめちりめ
籠子初

二三ケ日

鏡開四日

六日年越

若菜摘

忍ふはむ

とむき摘

七種

片落
佛座 俗田平子

草俗母子
松 俗水菜

蘿蔔 俗大根
葉菜

馬節會

七日の秋掛を履く白きとむきを
白陰高天陽陰陽和合と從ひ仍白をまきと留るなり

皆カ

十五日 十六日 ちるす者ありわのおととあり

初子の日子の
初子の日 子の
初子の日 子の

初寅の日 鞆多
初寅の日 鞆多

箕面の富突 七日
箕面の富突 七日

十日多びす宮 大 女王祿と後八日
十日多びす宮 大 女王祿と後八日

卯杖 初卯の日の日 梶柳ホス尺云す切枯中へなる
卯杖 初卯の日の日 梶柳ホス尺云す切枯中へなる

常陸帯神事 飛津の多女おりの人殺多河の時その男も此名と
常陸帯神事 飛津の多女おりの人殺多河の時その男も此名と

縣召 除目と云五月十日より十三日までおの人の城
縣召 除目と云五月十日より十三日までおの人の城

御連歌 十一日 武具鏡開 十一日
御連歌 十一日 武具鏡開 十一日

左義長 十五日 爆竹
左義長 十五日 爆竹

土龍打 十日 樹木の呪
土龍打 十日 樹木の呪

粥占 十五日 街忌 十六日
粥占 十五日 街忌 十六日

小豆粥祝 同上 三保祭 同上
小豆粥祝 同上 三保祭 同上

やぶ入 廿日 俗に藪入又藪父入と
やぶ入 廿日 俗に藪入又藪父入と

骨正月 廿日 田舎中
骨正月 廿日 田舎中

上元日 十六日
上元日 十六日

弓 十八日 弓場殿
弓 十八日 弓場殿

御連歌 十一日
御連歌 十一日

左義長 十五日
左義長 十五日

土龍打 十日
土龍打 十日

六 食 同上 冠神系 十九日

田清被 十日 初天神 廿五日

後に出て端すは... 十日 初天神

押は... 十日 初天神

梅... 十日 初天神

柳... 十日 初天神

鶯... 十日 初天神

八膳... 十九日

初不動 廿日 繪踏 廿五日

進行 廿日 繪踏 廿五日

關戸... 廿日

柳... 廿日

鶯... 廿日

霞... 廿日

鹿... 初草

若草... 初草

山... 初草

春鷹... 初草

系... 初草

生... 初草

松の花... 初草

苔... 初草

青... 初草

風光... 初草

百千鳥... 初草

...

戸、
玉江咲カマエサクのウツ水鳥ササガ轉ル。
嬰粟ウツクシ若葉ワカハ。

の根ネ堀ヒ。
鳴鳥ナゲトリ狩カ。
系ケがはらハ。
落フキのタウ莖ウ。

猫ネコのウ妻メ恋コイ。
野大根ノオオネ。
木キのノ芽メ。

あ、ぬるヌル。
田タとトせセく。
若和布ワカフ。
黒鳥芋クロトリウ。

妻メがガ。
雑菜摘ザウナツム。
三葉芹ミツハシラ。
根白草ネシロクサ、芥カイ。

娘ムスメがガ萩ハギ。
魚氷ウヲヒにニ登ノボル。
懶魚ノラウイサとト祭マツル。
麗ウツクシ。

長閑ノドカ。
水ミヅ和ワス。
鳥トリ轉ル。
菠薐ホウレン。

暖。
遅オソク月ツキ。
氷ヒ解トク。
鶯ウツクシ鳥トリ。

独ウツクシ活イキ。
鱒マス。
春凍解ハルヒヤトク中ナカ春ハル。
春雨ハルアメ。

雲雀ヒメドリ。
防風バウフウ。
鱒マス。
牙飯リハカヘ。

畑タテ打ウ。
鷓鴣シメジ。
土筆ツクシ。
蜆シメジ、シメジ、シメジ。

餘寒ヨリヒヤ。
畑タテ返ヘ。
鮎アサギ膾カイ。
芽メ花ハナ、メ花ハナ、メ花ハナ。

芭バ、バ、バ。
暮寒ヨルヒヤ。
種物タネモノ。
海雲ウミクモ、ウミクモ、ウミクモ。

芥菜カイサイ。
烏芋ウツクシ。
鳥トリ、トリ、トリ。
野老ノコ。

二月

鶯菜

薺

青饅

干鱈

酢蛤

草萌

白魚 目指

東風 和風

今年 去年

春麻氣氏

春分

春麻氣氏

椿

椿 古代ハ花核とをさるゝを新

二月

夾鐘

驚蟄節

春分 仲春

陽中

如月

令月

衣更着

梅見月

小草生月 初花月

中和節 朔日

吉野の餅くらり 同上

春日祭 上申

水間祭 初午

行基祭 二日

遺教經 九日

常樂會 十五日

柱炬火 十五日

比良八講 台 祇園八講 同上 浅間祭 廿日

野御忌 晝 道明寺祭 日上

踊念佛 時宗

萩奠 二月上丁日

宣王 顔子 二座 九折毛飾

二月堂の行

朔日 十五日

井戸 初午

初午

初午

列見十一日公卿并少納言
外記

社日 春分前後
後の戌日

治聾酒 社日に酒を飲ぶ
治聾酒 耳の音を治す

新の能 七日より十日まで
芝能ともいふ

温泉會 十五日
伊弉諾大神の御祭

積塔 十六日
琵琶法師修す
光孝天皇の皇女乃

彼岸 中より十日め時区も云
彼岸の心が人の世あり

帰鴈 少の鳥
燕 舌を吐く

虎杖 虎の尾
虎杖 虎の尾

初雷 虫が雷
初雷 虫が雷

水葱摘花 出留り
水葱摘花 出留り

焼野 焼く
焼野 焼く

地虫穴を虫
地虫穴を虫

苗代 種井種浸
苗代 種井種浸

蝶 似我蜂
蝶 似我蜂

蜂 似我蜂
蜂 似我蜂

蛙 井の蛙
蛙 井の蛙

蕨 下蕨
蕨 下蕨

忌目 忌目

かぢるカヂル カヂル

紫ムラサキ

玉加木ウツクキ

麻アサ

大根の花ダイコン

虻アブ

若紫ワカシ

餅花煎モチバナ

鳥の巢トリノネ

銀杏の花イテウ

彼岸櫻ヒツキ

花と待ハナとマテ

初花ハツハナ

馬刀ウマタテ

角落鹿カクノカ

みほとまのむミほとまのむ

二日灸ニヒノヤキ

菜の花ナノハナ

かつらカツラ

蒲公タシホ

狗脊イヌマユ

杉菜スギナ

枸杞クキ

胡葱コシ

韭ニラ

とろと

孕鹿ハラムシカ

接木ツギキ

野蒜ノビル

蒸鱧ムシカシイ

鳳巾イカホリ

鱒マス

孕雀ハラムス

接穂ツギホ

引鶴ヒキカ

とろと

田螺タニシ

蒜ニンニク

雀の子スズメコ

引鴨ヒキカ

三月

姑洗コセン

花飛ハナトビ

清明節コウメイ

竹秋タケアキ

穀雨中コクウ

宵月ヨイヅク

季春キシュン

楔月ケツグ

中和チュウワ

弥生ヤシ

さくさくはさきしきさくさく
さくさくはさきしきさくさく

花盛 心花に成り花の
初まはれ

櫻 ^{サクラ} ちと様 一重様 八重様 雛さくら 山さくら 赤桜 白桜 江戸さくら
緋さくら 塩う白桜 姥さくら 油荳桜 湯桜 人丸桜 江戸さくら

お井様 白さくら 子のと様 雨の桜 てるてる様 春さくら 志ざれ様
お妃様 ありの桜 谷さくら くらげ八重 糸さくら ぶらんさくら 太山府君

後足茶 わけの桜 わけ茶 虎の尾 若葉茶 かしら茶
墨深様 布引様 桜竹様 人様 戸 不引様

桃 緋桃 白桃 姫桃 けりしのさる
碧桃 子代茶 みるき茶 桃の天々
躑躅 白さくら 赤態 巨

蓮 ちつと 天ふつと 春水皮つと 田山つと 江戸つと 志のあつと
糸さつと 小式アつと 泳山つと みるきさつと 緋はつと

辰のつと 神つと 香つと
淀川つと 岩つと
藤 若柳 若浪 若うら若つと
白若 若ら若ら若若の丸

若葉茶 若葉茶のつと 若葉茶
若葉茶

山吹 秋冬
かたのさくら 材

のいれらさきこのこさくら
はくさきとさくら

蓮銭 蓮の似
さくら茶

お中ん茶 若葉茶とつと
花の若葉茶とつと
茶摘 さくら茶

田鼠化て鶏と旅 田鼠と鶏 田の前に
あつとさくら

蚕 糸子

麦鶏 ひくさき 海裳 ねむれるさ
あつとさくら

梨の花 梨のつと
あつとさくら

令法 さつと
茎 つとさくら

連翹 沈丁花 若ひ糸 馬酔木の花

葉櫻

葉柳

辛夷

長春

犬櫻

東菊

春菊

杏の花

李の花

木蓮花

九輪草

金錢花

金鳳花

檜の花

竹の秋

小手毬

下子草

母子草

茗荷竹

仙臺萩

小梅の花

林檎の花

杏子の花

楊梅の花

通草の花

蘓枋の花

春蘭の花

木瓜の花

馬蘭

櫻鯛

櫻貝

柳籠

小鮎

八十八夜

山吹衣

若菰

上り築

鷹の巢

呼子鳥

櫻魚

コトシレ

五形

柳葉魚

郭公巢

アノコ

炉塞

三月尽

小米花

檜うぐい

鷹の巢

川跡鞠

火燧塞

ほろい夜

菅花

玉卷葛

玉卷芭蕉

古茶

蘭の花

罌粟花

綿種蒔

花柚

鴨足草

梅の実

ぬきくす

薔薇

苔花

桐の花

あちあひ

岩藤

柿の花

茶引糸

うはや茶

一八

手毬花

風車

あちあひ

鳶尾

わくわく糸

おふま

苴の臺

踊花

竹の子

岩梨花

黄櫨の花

若楓

箏

志の糸

石菖の花

藪椿

すゝのこ

蓮若葉

枳殻の花

蓼

きしくのむ

蓮のまゆ

厚朴の花

落

利根草

蚊帳

椶櫚の花

紫蘓

紙帳

むくろけ

柑子の花

蜜柑の花

九年母の花

橙花

金柑の花

雲州橘花

七

常磐木の落葉トキハキ 榎等也

蠅虎ハエトリクモ

蚯蚓虫ミミズ

若葉の花

蠅ハエ

蚊モノコ

子又ホウフリスシ

鹿の角袋

蚤ヒル

飛蟻ハアリ

枝の煙

あまうり籾フシ

初鯉カホ

鯉釣カニヒシホ

蟹醬

あや烏賊イカ

蚰蜒ゲナク

鴈カシコトリ

鵲鳥ヅトリ

青鷺サギ

一夏籠イチナテコモリ 夏書

夏行 夏経 夏花 百日行

安居アンゴ 夏行と

五月

蕤賓スイヒン 律リツ 芒種マウチュウ 節セツ 夏至シュウジツ 中ナカ 仲夏チュウカ 茂林モウリン

皋月カウ 早苗月サナエツキ 鷄月シヨウ 橘月キヒツキ

菖蒲シヤウブ 五日

端午タンヌ 艾虎アイコ 蒲人赤靈ハスナヒ 唐の例カラノタマシ

幟立ノボリ 小幡コハタ 紙カミ のり

甲飾カウシ 甲人形カウジンガタ 志シ やうふヤウフ 志シ やうふヤウフ 志シ やうふヤウフ

菖の節供シヤウノセツクハヒ あやめアヤメ やうヤウ やうヤウ やうヤウ やうヤウ

あやめアヤメ あやめアヤメ の輿ノウ あやめアヤメ を刀ヲ あやめアヤメ のノ 棟トウ の佩ノ 棟トウ ふフ

粽チマキ こもコモ ちまきチマキ さサ こコ ちまきチマキ

角糰カクダマ

粉團射コノダマ 五日イツヒ 辨ハ 小コ 巻マキ 子コ と入トイ

藥日ヤクニチ 五日

藥玉ヤクダマ

菜ナ の玉ノタマ ちチ の玉ノタマ ちチ の玉ノタマ ちチ の玉ノタマ ちチ の玉ノタマ

藥草摘ヤククサ 競駢ケイヘン 百艸摘ヒャクショウ

百草と戦タカいらくの事と合ハ勝負ハまじり

騎射キヤ五日右辺のままつらひハおまきの
左辺のままつらひハ羯の虎と

水馬クマ五日の中とるハまて
お後と事ハまじり

鳧車フヤ同社の至ハ事ハまじり

印地打インヂウ

賀茂の競馬ケイバ五日ハらハるハまじり

住吉御田植ジキミ廿八日

生玉流鏑馬イクタマ五日

伊勢山川祭イセ八日山田六川ハりて毎季ハ日輪ハ祭ハ

山田御田植ヤマタ同上

有無の日ウム廿五日日終日ハ清例ハと

丹後タニおまハらハるハまじり

祇園御輿洗ギン晦日ハ夕ハ

帷子カクレ裕帷子ハ

赤きうハらハるハまじり

清涼殿セイリョウ行ハル

五月雨イツメ五月ハのハらハるハまじり

半夏生ハナハ夏至ハ

入梅イロヒ梅ハのハらハるハまじり

鶺鴒セウリョウかハのハらハるハまじり

雛ヒナのハらハるハまじり

鶺鴒セウリョウかハのハらハるハまじり

鶺鴒セウリョウかハのハらハるハまじり

鶺鴒セウリョウかハのハらハるハまじり

鶺鴒セウリョウかハのハらハるハまじり

鶺鴒セウリョウかハのハらハるハまじり

鶺鴒セウリョウかハのハらハるハまじり

鶺鴒セウリョウかハのハらハるハまじり

鶺鴒セウリョウかハのハらハるハまじり

鶺鴒セウリョウかハのハらハるハまじり

百合 花あり 葉あり

田植 苗くまう 田う

早瓜 あきあう 白あり

鏡響草 くさくさ

末摘花 あきの

蝸牛 かたつぶり

照射 火串

麥川 麦粉 麦ワ

覆盆子 木つらこ

紫陽草 四つ

忘草花 萱草

標 せん

鯢狩 あな

照射 火串

入梅 梅入

石菖 いしきやう

夏菊 なつぎく

枇杷 たちばな

若竹 わかしやう

天蓼 あまぢやう

藻の花

藻と刈

藻川舟

萍の花

菱の花

天南星 てんなんせい

早松茸 はやまつたけ

早初茸 はやはつたけ

生胡桃 なまくるみ

青山椒 あやまじ

南天の花

ひまわり花

さくらんぼ花

下野花

びやうれ柳

茄子 刈葱 根芋 若草 青田 胡瓜 蘭

栗の花 茨の花 榊の花 法を以 田舎取 稗蒔 柀蒔

桑の實 花菖蒲 朝露草 青小豆 粟蒔 荏蒔 玉簪

六月法 花柀榴 和布と刈 青さくげ 馬齒草 胡麻蒔 さらさら引

柀花 築打 鮎 藜 菟 蟹 黒ち

蚊帳艸 水蕨 水馬 蟪螂生 水鳥の巢 蓴 白ち

合歡の花 水鱧 水雞 蛇衣脱 鴨の浮巢 鳧の羹 毛む

あつめ刈 干鰓 常るるを入 蟻の初夢 蛆 毛む

沖のあけ黒くらを黒ちと云ふ
白くくらを白ちと云ふ

六月

林鐘律 小暑節 大暑 中季夏 瓜期

旦月 遯月 水無月 風待月

鳴神月 常夏月 陽氷

賜氷節一日 氷の貢 氷室 氷餅祝

一夜酒 麻地酒 醴粉酒 富士詣 同日 精進

六月會 祇園會 御躰の御卜

除時の祭十五日にあり

津島祭 十四日 勢田祭 十四日

嚴嶋祭 十五日 竹生島祭 博田祭 十六日 江戸山王祭 十五日

御手洗詣 廿日 鞍馬竹切 廿日 伊勢祭 十六日

愛宕千日詣 廿四日 大坂座産祭 廿三日

賀茂水無月之能 廿日 橋立祭 廿五日 住吉御稜 廿日

唐崎祭 廿日 施米 東山北山西山

小蠅おひ神 大早の早八

大稜 廿日 後川

夏枝くく夕暮くくあさくの後
わしよこの後 けしきひき

川社 夏枝川をよ柳とくす
神とやうき

形代 川後よ人の氣をけり川
あしあき氣をさしきり

菅貫 杖之具也
茅の輪 ちうく

撫物 日
あしきり人

鎮火祭 卅日ト部氏のゆひ
火籠除のき

夏神樂 くらとくく
あしきり

雷鳴の陳 雷あまの交るれを
大おひ下 近來の次お

三伏 夏正の後才この庚の日と初
伏とあす才田の庚と中伏とあ

座頭涼 十九日
サトウノ

涼 月涼くく
あしきり

紅の涼 十九日
北日マテ

京四条の涼 七日ヨリ 川の舟小舟とくく
十八日マテ 船と鋪持とく

江戸兩國橋の涼 船ゆきん 登形船
あしきり 夏夜涼上に群集

嘉定錢 十六日 暖哉天宮潜統の時宋の加を錢十六文と以
此日從供と後くそ例と利

簞 浮蘭蓬 脚馬 抱竜
竹夫人 涼の具

泉 泉殿 滝殿 汗 汗をぬい
水閣 泉風 汗あせ拭ひ

扇 五明くく 雉尾扇 扇車
扇すまふ 扇引

土用干 虫干 團 團
虫拂 團 涼うち

心太 心太
あしきり

清水 汲いよふく
清あしきり

楮の花 紙をきき
紙にぬき

麻 麻引 青苧 夏引糸
新苧はくく

瓜 瓜 瓜
梵天瓜 瓜

夕顔

テヒヤウシク

撫子の花

石竹 ころもりの花

蓮の葉

蓮

荷葉水芙蓉 荷の葉の白蓮 蓮の花

蓮の実

百日紅

百日紅 海松 荒和布

射干

蝉

蝉

神り 蠟

夏虫

蠟

蠟

夕立 蒜根

神鳴

夕立

蒜根

青瓢箪

青瓢箪

南瓜

南瓜

江戸初鮭

せご

沖膾

沖膾

夜蘇賣

陸

上州新絹

上州新絹

日野

町

石尊

石尊

石尊

糸

極暑

極暑

炎天

葛の花

納豆造

納豆造

薄暑

綿の花

醬油造

醬油造

その味

糸

あつき日

あつき日

むとく物

糸

あつき日

あつき日

むとく物

菱の花

蘭と刈

菅と刈

藍と刈

白麻刈

蒲の穂

青蕃椒

醬造

奈良漬

竹の皮抜

昼顔の花

麒麟草

けりうひ系

扇の尾花

日盛

日傘

温風

風薫

藿乱

葛水

水飯

麻頭巾

麻羽織

振舞水

水引粉

香薷散

砂糖水

洗ひ飯

夏枯草

干飯

青鬼灯

鷹羽はくひと智ふ

林檎

赤草

蚘

茗荷の子

道明寺水

鳥糞搗

杏子

澤泻

早桃

洗鱸

洗鯉

煮冷

杏

河乃ぬ

風蘭

楊梅

海月取

金龜虫

雲雀鷹

鷺草

李

凌霄

眼皮

鯖釣

夏の刈

夏果る

夏の限

夏まで

秋を隣

秋をき

こぬ秋

秋と待

秋

少皞帝

蓐收神

爽頼

旻天

白蔵

金商

七月

夷則律

立秋節

處暑中

孟秋

桐秋

初秋

首秋

明景

桐月

文月

蘭月 女郎花月

七夕

七日御節會 硯洗 机洗 七度喰 星の手向 詩哥連俳七夕會

二星彦星

星のより一物 星ヤウリ 牽牛 織女 女七夕 男七夕 星の契

あまの川

銀河 銀浪 銀漢 川の川 星合の濱

かさねの橋 雁鵲の橋

紅糸の橋

妻迎船

乞巧奠

庭の立琴

乞巧針

七孔の針 糸と糸 糸手向

七種の船

草花と舟を飾七夕たむく 萩 萩魚尾を飾

七箇の池 七箇の水に
星を移し

飛鳥井家七夕の鞠

池坊七夕の立花

荷前の使 天子より諸廟へ
勅使立ち

文殊會 八日 六道参 九日

清水十日詣 十 槓買 六段系のたより
湖に架け

孟蘭盆 盆供 諸寺施餓鬼 一日より
十五日迄

梶比葉 七夕のたけなすに
虫の手向

御門跡簞花 早むらそ
作物あり

攝待 門下系ともいふ
此來の人よりあそぶ

逆の峰入 本山七月
當山八月

聖靈子迎鐘 同上

焰魔参 十六日

盆市 聖霊産
聖霊竹

芋売 土器
手向物品

むら火焚

靈祭

聖霊棚

玉棚 棚經

根芋 枝豆 青うけいぐら
粟穂 稗穂 稻穂 瓜の馬 茄子の牛
ゆけいぐら 花とらら

燈籠 きんこ
ちゅうりゅうりゅうりゅう

送り火 鹿ヶ谷ハ大文字 愛宕ハ鳥井
松ヶ岡ハ妙法 舟岡ハ舟形

三井寺女詣 七月

燈籠踊 長谷
夏書納

經木流

題目踊 松ヶ
七月十五日

盆の法水入

伊勢山田と所々乃
糸の苞と持系と

扇置 中元
七月十五日

生身靈

父母おくる人蓮の飯
刺結とあ祝と餐

新綿の奏 十六日 貢物

小結 菊角カ
初司古儀入

一葉 相の多ふあり

の心、おこれ本萩

萩こそ本萩より、若枝と生して花咲

一株に百なつて有萩と云く

萩花、一日の栄あり

相撲 正身、こころつひに過ぎぬ

踊 小町おどり
いせおどり

萩 萩の多ふあり

萩花、一日の栄あり

萩花、一日の栄あり

萩花、一日の栄あり

萩花、一日の栄あり

花とに七 男良花 花とに七のむ

益母草 益母草 益母草

蘭 蘭 蘭

仙翁花 仙翁花 仙翁花

菊 菊 菊

蓮の實飛 蓮の實と

萩花、一日の栄あり

薬師草 薬師草 薬師草

桔梗 桔梗 桔梗

萩花、一日の栄あり

萩花、一日の栄あり

萩花、一日の栄あり

萩花、一日の栄あり

萩花、一日の栄あり

新綿の奏

新綿の奏

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

益母草

秋の胡蝶 コテフ 秋の胡蝶 コテフ 秋の胡蝶 コテフ

秋津虫 アキツムシ 秋津虫 アキツムシ 秋津虫 アキツムシ

松虫 マツムシ 松虫 マツムシ 松虫 マツムシ

虫撰 ムシヒラミ 虫撰 ムシヒラミ 虫撰 ムシヒラミ

鳥屋出の鷹 トヤデ タカ 鳥屋出の鷹 トヤデ タカ 鳥屋出の鷹 トヤデ タカ

秋風 アキカゼ 秋風 アキカゼ 秋風 アキカゼ

鳩吹 トウク 鳩吹 トウク 鳩吹 トウク

露 ツユ 露 ツユ 露 ツユ

早稻 ワヒ 早稻 ワヒ 早稻 ワヒ

早稻 ワヒ 早稻 ワヒ 早稻 ワヒ

新涼 シンリョウ 新涼 シンリョウ 新涼 シンリョウ

初て涼 ハツテスズメ 初て涼 ハツテスズメ 初て涼 ハツテスズメ

沙る虫 サルムシ 沙る虫 サルムシ 沙る虫 サルムシ

今秋の秋 イマアキノアキ 今秋の秋 イマアキノアキ 今秋の秋 イマアキノアキ

餓暑 ガショ 餓暑 ガショ 餓暑 ガショ

冷酒 レイシュ 冷酒 レイシュ 冷酒 レイシュ

冷酒 レイシュ 冷酒 レイシュ 冷酒 レイシュ

青蕎麥 アヲソバ 青蕎麥 アヲソバ 青蕎麥 アヲソバ

冷麥 レイマキ 冷麥 レイマキ 冷麥 レイマキ

ぬる麦 ヌルマキ ぬる麦 ヌルマキ ぬる麦 ヌルマキ

ぬる麦 ヌルマキ ぬる麦 ヌルマキ ぬる麦 ヌルマキ

常山の花 ジョウザンのハナ 常山の花 ジョウザンのハナ 常山の花 ジョウザンのハナ

西瓜 スイカ 西瓜 スイカ 西瓜 スイカ

木瓜の実 ボケノミ 木瓜の実 ボケノミ 木瓜の実 ボケノミ

鉈豆 ナマメ 鉈豆 ナマメ 鉈豆 ナマメ

くさねの虫 クサネノムシ くさねの虫 クサネノムシ くさねの虫 クサネノムシ

番椒 トウガラシ 番椒 トウガラシ 番椒 トウガラシ

桃の実 モモノミ 桃の実 モモノミ 桃の実 モモノミ

犬子艸 イヌコノクサ 犬子艸 イヌコノクサ 犬子艸 イヌコノクサ

小車花 コクルマハナ 小車花 コクルマハナ 小車花 コクルマハナ

柳散 ヤナギチリ 柳散 ヤナギチリ 柳散 ヤナギチリ

黄柳 ワウリョウ 黄柳 ワウリョウ 黄柳 ワウリョウ

芭蕉 ハセウ 芭蕉 ハセウ 芭蕉 ハセウ

茗荷の花 メイカハナ 茗荷の花 メイカハナ 茗荷の花 メイカハナ

桐 キリ 桐 キリ 桐 キリ

糸のむ イトノム 糸のむ イトノム 糸のむ イトノム

糸のむ イトノム 糸のむ イトノム 糸のむ イトノム

鬱金の花 ウツクミハナ 鬱金の花 ウツクミハナ 鬱金の花 ウツクミハナ

楸 ヒサキ 楸 ヒサキ 楸 ヒサキ

毘麻 ヒメマ 毘麻 ヒメマ 毘麻 ヒメマ

焼米 ヤキコメ 焼米 ヤキコメ 焼米 ヤキコメ

やいばらむ ヤイバラム やいばらむ ヤイバラム やいばらむ ヤイバラム

蝟 シイラ 蝟 シイラ 蝟 シイラ

ちんちん チンチン ちんちん チンチン ちんちん チンチン

垣豆 カキマメ 垣豆 カキマメ 垣豆 カキマメ

すまみ草 スマミクサ すまみ草 スマミクサ すまみ草 スマミクサ

花火 ハナヒ 花火 ハナヒ 花火 ハナヒ

槐花

絲瓜

觀音草

茶調虫

夕負別當ユラカホベツ也エヒカツラ紫葛

八月

南呂律ナノリ白露節ハクロ秋分中アキノヒ仲秋

壯月

桂月 竹春 朏月 葉月

鴈来月

秋風月 月見月

田面祝

田実祝

八朔ハツキ繪行畧エガキ絲雀イトリ當日禁中之式有

堺天神祭サカイ三日

北野祭キタノ四日

白鬚開帳シラヒゲ五日 八幡祭ヤチワン十五日 放生會ホウシヤウ十五日

鶴岡八幡祭ツルカサカ 阿野津八幡祭アノツ十五日 伊勢 豐浦八幡祭トヨウラ日 上

箱崎八幡祭ハコサキ日 筑前 宇佐八幡祭ウサ日 豊前

志賀八幡祭シガ日

深川八幡祭フカガハ日 江戸 板鼻八幡祭イタバナ日 上州

司召ツカサシ十一日 系官の六位とてをて 菅大臣祭スガ

歎活杖乃祭ソクワツシヨ乃祭ノ祭マツルの祭としてゆくを、むらゝ形アの司

歎ソク杖ワツシ乃ノ祭マツルの祭としてゆくを、むらゝ形アの司

老を道に宿り
まづくらしり

秋奠 シヨクテン
おきまらるゝ式法
せきごころ 二月に出

西院祭 廿日

名月 十五夜 三五夜 名高き月 芋名月 二月の月 新月
良夜 夕の月 此外月異名月 部ニ悉シ

駒牽 コマヒキ 約逆 正月の約 ぎり系の約 禁庭の約と引
甲斐の駒牽 十七日 武蔵の駒牽 廿七日

龍田姫 タツタヒメ 秋の色と染出を神
造化の神 非神祇

いかとせせる 鶴鴛ツル云
後の彼岸 蛇穴ハ

小鷹 小鷹狩 鷹網 鷹トビ巢カら
見鷓 モロカヘリ 小隼 サシバ

雀賊 黄鷹 青鷹 形とれ鷹

ひうりの鷹 鷹打 ウツラタカ うぐくを
うぐくを

鷹 のり合 かりうき 鷹 のり合 鷹 のり合
鷹 のり合 鷹 のり合 鷹 のり合

巴鳥 ウツラタカ こころ 四十雀 六十雀 目しち 初よとり 法ん
ひきひき せきごころ せきごころ せきごころ

鶉 ウツラタカ けしき けしき けしき けしき
けしき けしき けしき けしき

鳴 ウツラタカ 川系しき 鳴 ウツラタカ
川系しき 鳴 ウツラタカ

小鳥渡 鹿 ウツラタカ さがし 麻のつま 麻のつま 麻のつま
麻のつま 麻のつま 麻のつま 麻のつま

鮭 ウツラタカ 小鰯引 ウツラタカ いまのまのまの
いまのまのまの いまのまのまの

種瓢箪

牡丹の分根

稗刈

種夕顔

糸れぎ付

稷刈

種南瓜

ころもく引

芽萱

種茄子

くらり引

薬堀

鳳仙花

曼陀羅華

茜堀

雞頭花

百部桂

鶉草

金剛草

蕎麥の花

野菊

百夜草

ころもくのりじ

鬼灯

鴨上戸

木犀の花

縷紅

若菘蓐

うすのび

通草

木芙蓉

束

うすゆひ

冬瓜

大豆引

小角豆引

三七花

江鮭

かどろり

太刀の魚

竹の春

初汐 八月の大汐

野分 八月の大風

はまの帰

花壇 草花

占 夜打 きぬ打 田子打

九月

無射

律

寒露節

霜降中

季秋

玄英

季商

紅樹

菊天

素秋

舞射

残秋 未秋 玄月 晚秋 涼秋

菊月 陰月 抄秋 あけの月 ねむる月

のぐち月 木深月 木末の秋 小田刈月

重陽の宴 九日重九 菊且菊節句 菊酒 重陽 栗且栗節句

九日小袖 菊重衣 紅葉衣 後の雛 おまのめな

足袋ももき初秋 不堪田の奏 七日是は後玉田乃 換亡の所を

目録はては流し 桂宮相模 八日 泉涌寺舍利會 八日

醍醐祭 九日 能あり 御香宮祭 九日 伏見 鞍馬祭 廿日 貴布祢祭 九日

生玉祭 九日 大坂 四宮祭 九日 大津 下鳥羽祭 十日 例幣 十日

白川祭 十日 岩倉祭 十日 北山 栗田口祭 十日 一宮祭 十五日 河内

岡崎祭 十六日 東山 木幡祭 廿五日 鹿谷祭 廿四日 逆髪祭 廿四日

北山祭 廿日 鳴瀧祭 廿八日 津村祭 廿七日 津国

天王寺一条會 十四日 太秦祭 廿日 小倉祭 十五日

八幡花の頭 廿日 つくろ花を 天満鎗流馬 廿五日 大坂

吳服祭 十七日 津国 波利祭 室町

度會新嘗會 八月十六日 十七日 禮拜仗 勅使あり

伊勢御遷宮 十六日 廿年目 御社立替 夜分也 禮幣使あり 勅使立

神田明神祭 十五日 江戸 日蓮御難れ餅 十三日

住吉の市 十三日 外の市 住吉礼相撲 同上

後の月 十三夜 二夜月 豆名月 月の多きり 菊 菊合目精 更生 濡鷺

こより菊 酩酊 羊歡 回峯 女郎 周盈 菊 金目貫 白菊 黄菊 紅菊 袋菊 花 大般若 弟艸 翁艸 砂金 毬菊

残る菊 十日の菊 残菊の宴 承和菊 黄菊

紅葉の筏 色あはる 楓 色見艸 紅葉の船

名木散 萩茶 秋 柎 まるの いてる 銀杏

柚 柿 串柿 本柿 柿 柿 柿

三十一日

三十一日

三十一日

三十一日

うづき

ひよん

ぬんとう

霜踏鹿

新蕎麥

葉薑

狼獸と祭

柘榴

胡桃

露霜

夜寒

紅葉鮒

檀

榧

苑豆

漸寒

露寒

冷ト

うぢき

檨

柞

桐油の實

露時雨

将寒

長夜

お多

榛

萁

尾越の鴨

葛蕪玉

蔓梅嫌

新酒

番船

茶々奠祭

住吉の神送

熊栗の棚搦

薩摩芋

晚稻

蒲萄酒

番綿

茶々

住吉

木薬子

樽田

糴穂

袋

番船

茶々

九月

何首烏

梅嫌

小瀑江鮒

糴穂

番船

茶々

暮秋

新酒 中汲 古酒 蒲萄酒
番船 一番船 二番船 三番船
茶々 奠祭 茶々 奠祭
住吉の神送 北日

九月 暮秋

進爐炭炭の 燵燵の 獵獵の 喰喰の 同上 拜墳 同上

興福寺法華會 六日 東福寺開山忌 十六日

法勝寺大社會 廿八日 金毘羅祭 十一日

達磨忌 五日 十夜の念佛 日より十五日まで浄土宗

維摩忌 十日 日蓮御影講 十三日 法花宗 御取越 一向宗 祖師

親鸞上人の忌日十月廿八日本願寺にて大法のりあり来る

惠美酒講 廿日法必商人おとくをくちあふ 哲文佛 惠美須の膳賣買

茶の口切

爐わ 開わ 巨ユ 燵カ 切カ 炭ス 炭竈 炭焼 賣炭 輪炭

池田炭 熊野炭 櫻炭 冬ユ 籠ユ 櫛カ 田舎にて大きある木の根と

相火桶 わん 綿ワ 頭巾カ 蒲團フ 紙衣カ 紙子羽織カ

衾カ 柳ヤ 萩ハ 紙カ 綿入羽織ワ

月ツキ 牙キバ 紙カ 綿入羽織ワ

鐘カ 牙キバ 紙カ 綿入羽織ワ

鐘カ 牙キバ 紙カ 綿入羽織ワ

初氷

葛のつる

綿子

後ひりし

寒菊

菊のつる

足袋

ありのつら

鴨鷹

鷹のつる

石落

革羽織

鯽

茶のむ

山茶花

冬木の櫻

鰻

冬牡丹

八手の花

枇杷の花

飯花

飯花のつる

菜ゆ

かきま

蕪引

大根引

納豆汁

水漬

芋のつる

あがり

風木枯

枯野

あがり

落葉

あがり

川音の震

霜

あがり

月の影

初雪

あがり

液雨

水鳥

あがり

鴨

千鳥

あがり

鴛

わちむら

あがり

生海鼠 このうら

網代 わかろき 氷魚 いよの魚

夜興引 このうら

妙音講 諸国座頭の祭也十月十四日一郡の座頭仲間寄合宦列と平一弁天妙音井

の尊像とくけ通供物と備順番よ

十一月

黄鐘律

大雪節

冬至

中周正

朔易

霜晨

氷壯

星紀

畧知

芸生

宵氷

仲冬

盛冬

冬半

陽復

子月

鴨月

復月

霜月

天正月

霜降月

雪見月

朔旦冬至 十一月朔日冬至多れはるは是十年の事

一陽佳節 十月無陽の月より冬至より一陽来復

曆の癸

宮線と添

系とめそ日の

履 唐をて姫より

相嘗祭 上卯大和

住吉大神 師鴨

恩智 意富

新嘗祭 中卯今年

日前 右の神主

幣と請取行 祭より

豊れ明の節會 中辰今年

神奉 天子より

天子召れ臣

殿上の淵醉 中丑

長臺の試五節の群と御覧

童女御覽卯日清涼殿童女と召れ御覧

鎮魂祭離魂と

空也忌十三日 鉢コ、俗髪と忌

大師講廿四日 報恩講ホ、フシヨク

一向宗祖師親鸞上人の忌日十二月廿八日
本願寺にて廿二日と廿八日と廿七日

の向大法事あり廿八日夜

芝居顔見世朔日 足揃

髪置十五日

袴着同上

雪六ツのむ 雪車雪の上と

栴雪杏 綱貫同上

雪垣雪竿

雪車雪の上と

雷玉わくれ 雪吹吹まると 氷氷の毛と 雲雲の毛と

氷柱銀竹

寒苦鳥羽冷をいふ鳥に

鯨二のりり 鯨船一の鯨の

土夫魚あくれ

茶茶

湯湯

鮎鮎

風呂吹大根

玉子酒若中

湯湯

鮎鮎

鮎鮎

湯湯

鮎鮎

鮎鮎

湯湯

湯湯

水仙金盞
銀臺

雪の下

魚

豚

冬土梅

胡蘿蔔引

凍

駝

太山檜

薑引

法めふれ

鷹かゝる鷹は狩鷹を指す

葱ひしひし

石荳

ころも

才鷹才鷹は鷹の一種

退羽打退羽打は鷹を打つ

ぬすまをぬすまをは鷹

鷹の羽を打つ

偷立書偷立書は鷹

ちかちかは鷹

振木の振と片足振木の振と片足は鷹

鷹鷹の種

鷹左毛鷹左毛は鷹

鷹の羽

羽羽は鷹

屋形尾屋形尾は鷹

ぬくぬくは鷹

鷹の尾

鳥柴鳥柴は鷹

鷹鷹の種

仁徳天皇の御宇百濟国より

里神樂里神樂は鷹

禁中の外れ神樂

神樂哥神樂哥は鷹

皆里から

燎燎は鷹

士

弟月 戌冬 三冬月 梅初月 春待月

乙子元朔日 オトコ オスノ

川浸餅朔日 カハヒタリモチ 臘八日 ロウハツ

温糟粥 ウツカウカコ 臘八日 ロウハツ

事始 コトハジメ 関東八日 関東ハ八日 上方八十三日 上方ハ十三日

御髮上 ミカミ 下午日 下午日 天子の御衣 天子の御衣 御焼 御焼

着駄の政 チヤクダノサキ

天智天皇御國忌三日 テンチノミチノミ

佛名 ブツナマ 十九日ヨリ 廿二日マテ

加法 カフ 糸 イト 天子より 天子より 糸 糸 の

師走 シロイロ たり たり 糸 糸 師走 師走 たり たり 糸 糸

は は 糸 糸 の

土牛童子の像と立ル ツチウシドウジノイザム

寒の日禁中四方の門に 寒の日禁中四方の門に 法陽師と立ル也 法陽師と立ル也

樞梨乃勸盃 スヱリノクワンサイ 津の玉 津の玉 勸盃 勸盃

寂勝寺灌頂 シヤクショウジカンテイ 十五日

大徳寺開山忌廿二日 ダイタクジカイサンジ

寒垢離 カンゴリ

寒念佛 カンニブツ

多 タ 寒 カン 曝 ハク

寒曝 カンハク

餅搗 モチウツキ

箕和田鯉 ミノワタイ

餅花 モチバナ

黄鯰 ワウササギ

鵲巢 カケキス

早梅 ハヤウメ

早咲梅 ハヤサキウメ

庭鳥 ニハトリ

探梅 タンバク

早咲椿 ハヤサキツバキ

寒造酒 カンゾウサケ

臘梅 ロウバク

室咲梅 ムロサキウメ

孟宗竹 モウソウタケ

早椿 ハヤツバキ

室の椿 ムロノツバキ

寒竹子 カンタケ

年忘 トシワスレ

歳暮市

年一物買

煤拂

煤掃

古札納

星山仰賣

年木樵

節季候

寶船賣

正月の飾物皆賣買とせしむる

曆元末

弓矢羽子板賣買

節分

除夜 上同

吉田の大稜 節分

内侍所の御神樂

節分 之夜

厄かこい

豆打

柘指

鰯頭指

厄かこい

大原雜候寐

昔方の寝方と云ふことねきこひ方

追儼 鬼中し

衣配

小晦日

大晦日

大晦日の夜先程乃

大晦日の夜先程乃

岡見

大晦日の夜蓋と云ふことねきこひ方

齋宮比繪馬

大晦日

門松といとあむ

和布刈之礼

長門国をこも大明神 海岸ニ社有

毎年大晦日の夜寅の刻お至りて漫々たる大

海

海を立とてとて海底平々たり神主たはまらり

奉れ

海を立とてとて海底の和布を刈取神前へ備へ

雜

四二五

雜之詞

二季と争句ハ雜也 花紅葉 寒暑ト結句

飛花落葉ト續句 又四時不断の物ハ雜也

松竹の落葉 米 麥 豆 松の緑等

無名の虫鳴ハ 小鳥秋 冬花ハ 桂秋実ハ 村雨

薄夏 苺夏花 藻夏花 虹初 蓬生春 神 蛤

浅芽原若葉 芦角組 菅 真蔣 早 電

不雲 清水夏 梅干 蕨虫秋 柳漆 玉虫

泉鷺 山鳥 都鳥 鮒 鯖 鰯 鹽物

鳥同 鷹の埒 野鷹 離鷹 離鶉 鴨の羽盛

梅壺 梨壺 桐壺 藤壺 鴨沓 舞扇 礼扇

搗栗 軍配戸の 鳴子 蚊同 鼯 布

布曝 右ハ槩記之余准可知而已

追加

○降物

あうりくまに二句去二句
はくく一句も捨

雨 雪 霜 雨 吹雪 露 雲 雹 霖

白雨 雪

○神祇 三句去三句捨

伊勢太神宮 日本六十余州 宮 社壇 遷宮 三寸

長官 社頭 社 祭礼 洗米 御師 拜殿

祝言 祠 散米 神主 瑞垣 斗帳 御供

柵 祢宜 玉垣 神託 初穂 社人 萩

千木 湯立 神輿 乙女 鯉木 幣 氏神

神馬 神子 鳥居 鎮守 贄 繪馬 欄

巫尊 祖天子ノ 小忌衣 神樂 命 祖臣下

木綿袴 袴 子洗水 膳 七五三 鷄羽膏

齊院 賀茂 齊 潔齊 忌竹指 矢大臣

神宿 川萩 菅貫 形代 叩首

神樂

大前張 阿知女

小前張 採物哥

星記 里神樂

起請

誓紙 神文

おちろくろ

有丹後

かろく

神々鋪也

伊勢講 太々講 參宮

非神祇

惠方

年徳

男山

放生川

龍宮

橋姫

山姫

精進

佐保姫

龍田姫

釋教

三句去三句はくく 一句もても捨

諸佛の名

諸菩薩の名

佛祖の名

諸佛經の名

諸僧法衣

諸の官名

諸宗佛具

羅漢の名

諸山号院号

寺

門跡

僧正

念佛

舍利

精舎堂

上人

題目

數珠

伽藍

和尚

塔和讚

拂子

庫裏

長老

談義

經

木魚

方丈

僧都

法問

五鈴

衣

眠蔵

能化

論義

御鈴

客殿

笛

所化

灌頂

帽子

輪蔵

山家

鉦

觀念

燕尾

行堂

鉢開	引導	諷經	血脉	坊	袈裟	主座
林香	塔婆	花足	坐具	衆徒	僧	座禪
回向	順礼	看經	持戒	禪定	入定	頭陀
卵塔	線香	五輪	生飯	天蓋	沙弥	宿坊
因果	錫杖	鉢扣	花曼	破戒	禁足	沙門
六道	彼岸	常香	頓寫	護摩	素絹	悟道
地獄	石塔	柱杖	諷誦	尼	五戒	

曼陀羅	功德	非時	齊	流轉	迎雲	來迎	極樂
作麼生	曼陀羅	作麼生	結伽跏座	補陀落	須弥座		
薦僧	三昧	非釈教	是釈言去	百萬遍	佛		
虚無僧	虚無僧						

煩悩 坊主落等の釈の詞 鐘 書記

賢者の釈名 諸職人の釈名 法印 法橋 水

○ 兩部 律儀も釈ありも二句あり 一句はくく一句も拾ル

五十一

雜

雜

帝釈天

辨才天

多聞天

持國天

增長天

廣目天

聖天

大黒天

毘沙門天

摩利支天

如此天と呼ぶ神

山伏

金剛杖 檜笠 檜杖

梓神子

立願 通夜

兩皮形箱

月待

日待

庚申待

神仏のまじりたる句 西部

○戀之詞

此のまじりたる句を讀みしるは 此のまじりたる句を讀みしるは

戀 夫 妹許

各気

玉章

惚

婦

詢

女房

二道

妹脊

娘

情

媒

薄情

形身

姿鏡

仇 娘

契

内儀

二女心

紅脂

嫁

恨 妻

腰元

門立

口紅

妬

妾 呪

花 娘

難面

爪紅

孕

占

花 婿

待 佗

白粉

誓 文

訛

入 聲

袖 引

化 粧

思

縁 忍

密 夫

伊 達

新 枕

俤

帳

靨

傾 城

心 中

衣 枕

幃

禿

戲

遊 女 神 祈

雜

五十一

手枕

耻

咄

戲

下

枕

香

嫩

白人

千話

枕繪

踊子

出合宿

口説

振袖

野郎

口舌

流目

色狂

袖留

陰間

口吸

ぬる

水揚

飛子

頬摺

指櫛

尻目

舞子

水祝

離別

金剛

忘ら

物怪

亡八

辻占

懐妊

執り

妓有

灰占

惡阻

花車

坊主落

私語

若衆

牽頭

蕪言

日元の塩

念者

辻君

立名

前髪

前

惣嫁

睦言

婀娜

意慕

近

夜這

指切

腕突

入癪

身と魚

揚屋

髪切

股突

密通

若後家

後添

湯女

白拍子

結ぶの神

女衞

千束の文

諸國傾城町の名

人目の関

人目忍ふ

手と志める

目くらをせ

尻はめる

子をおほひ 仇くくへ 下紐解 身くくあみ

寐乱髪 垣間見 おの女の住くる 垣とのぞくとりふ

錦木 二尺をくりの本と色く小く介き ちりあ女の門にけりあるとりふ

細布 くふの細布とて せすは布とて 後朝 あひあ女は

空炷 さきやう他きやうとけいハ 衣 物の別れと云 ね分

虫の印 いりの血をとりと女の乳はぬれを 欠女は後には不欠女はちちるとこ

非憲詞

髮 所縁 輿様 櫛 三縁 鏡 枕 乙女

中居 歎 宿執 夢 帯 半婢 乳母 泪

干詐 偽 後家 下女 御局 天乙女

早乙女 瞽女 市女 賤女 学の文 旅の文

佛日月星を祈る句 禪

右のかゝる水とりのも句ふよりゑに娘へ

○無常之詞 并哀傷 二句を一句とすも捨て 釈する句を

新

鳥辺野

仇一野

劔の山

三途川

魂結ひ

灰人

灰寄

葬頭河原

白骨

髑髏

冥途

龕

極樂

中陰

忌中

周忌

幽霊

人魂

追善

追悼

○迷懷之詞

二句を一句とも

寡

白髮

三輪組

おちの姉

貧

浪人

眉の霜

侘

病人

苦

継子

苔衣

乞食

世と捨

非迷懷詞

愚

賤

山賤

座頭

瞽女

柴戸

尉

翁

草庵

釣翁

賣炭翁

○人倫之詞 二句を二句とも

祖父

父

兄

姉

我

息子

娘

婿

祖母

母

弟

妹

妻

子

孫

女房

伯父

甥

五十四

五十四

舅ウヂ 夫ウツ 親オヤ 弟ヒト 獨ヒトリ 從弟イニ 伯母オバ 姪ウヂ 姑オバ

聖賢セイケンの名ナ 實名ジツミヤク 俗名ソウミヤク 僧法師ソウホウシの名ナ

傾城クイセイ白拍子シラヒヤウシ野郎ヤラウの名ナ 非人倫之詞ヒニジンリンノコト

帝ミカド 皇女ミコノミヤ 本院ホンイン 新院シンイン 仙洞センドウ 太子タシ 宮ミヤ

親王シンワウ 門跡モンセキ 大君オホキミ 仙人センニン 人間ニシヤク 一門イチモン 凡夫ボウブ

眷屬ケンバク 二人ニニ 三人サン 大勢オホセ 雜兵ゾウヘイ 衆生シュウジヤウ 典藥テンヤク

外科ケクワ 水道ホシダウ 老若ラウニヤク 鍼醫ハリイ 入道ニラダウ 百性ヒヤクシヤウ 旦那ダンナ

敵テキ かゝりカカリ 俗ソク 不仁カタハ 不仁カタハ 思同志オモトシ 代官ダイカン

目代メダ 民タミ 目付メツケ 苗主居メウス 奉行フギヤウ 身ミ 某ソレガシ 私ソコラシ

地頭チトウ 門主モンシュ 橋守ハシモリ 門守モンモリ 花守ハナモリ 山姫ヤマヒメ 寒山カンザン

拾得ジツトク 僧坊ソウバウ 僧坊ソウバウの官名クワンナ 親祖師シンソウシの名ナ 俗宦名ソククワンナ

苗字メウジ 守カミの字ジ 師シ 醫師イシ 佛師ブツシ 繪師エシ 鑄物師コウモノシ 是等也コトナリ

者シヤ 功者コウシャ 使者シヤシヤ 醫者イシャ 師シ 經師キヤウシ 御師ミシ 塗師ヌシ 獵師リヤクシ 是等也コトナリ

者シヤ 功者コウシャ 使者シヤシヤ 筆者ヒツシャ 儒者ニウシャ 助者スケ 是等也コトナリ

者シヤ 功者コウシャ 使者シヤシヤ 筆者ヒツシャ 儒者ニウシャ 助者スケ 是等也コトナリ

者シヤ 功者コウシャ 使者シヤシヤ 筆者ヒツシャ 儒者ニウシャ 助者スケ 是等也コトナリ

者シヤ 功者コウシャ 使者シヤシヤ 筆者ヒツシャ 儒者ニウシャ 助者スケ 是等也コトナリ

者シヤ 功者コウシャ 使者シヤシヤ 筆者ヒツシャ 儒者ニウシャ 助者スケ 是等也コトナリ

者シヤ 功者コウシャ 使者シヤシヤ 筆者ヒツシャ 儒者ニウシャ 助者スケ 是等也コトナリ

者シヤ 功者コウシャ 使者シヤシヤ 筆者ヒツシャ 儒者ニウシャ 助者スケ 是等也コトナリ

卯教多ある
りの思ふく

家 亭 床 梁

屋 樓 礎 隣

宿 庇 堀 天

菴 椽 鴨 井

軒 小 鳴 座

書 博 居 鋪

院 風 棟 閨

廊 爐 夢 玄

下 寮 閼 部

圍 寮 壁 室

○居所之詞 三句を三句はく
一句を七句はく

余ハ准一ある人

村

里

筑山

坪の内

泉水

路次

疊戸

外面

井戸

井筒

脊戸

簾

障子

鉤簾

翠簾

暖簾

土蔵

欄干

町

但及りの他町ありハ
居ありありハ

庭

居不ありハ
卯にありハ

余ハ准一ある人

柱

古書ハ非居所トシ
杖柱 檜柱 ちとハ居ありハ

非居所詞

内裡ウチノ 皇居ミヤノ 御所ミヤノ 非居所ヒイキ 神社シヤ 佛閣ブツカ
 千里チサト 邊土ヘノ 市場イチバ 軍場イクサ 鞠場マユ 等也トコ

○山類之詞 二句を三句はくく 一句を二句はく

山ヤマ 峯ミネ 嶽タケ 岨ツバ 岫クキ 谷タニ 峠トウゲ 高根タカネ 坂サカ
 尾上ヲヘ 九折クワラワリ 山姥ヤマババ 山姫ヤマヒメ 瀧タケ 山ヤマ 關セキ 逢坂アウサカ 足柄アシノ
 葛城カサガキ 久米の橋クミノハシ

山類用 本山類にお成りぬ

岡オカ 嶋シマ 岨ツバ 泊瀬ハヒ 水邊ミヅヘ 關セキ

非山類詞

吉野ヨシノ 島國シマクニ 瀧川タケガハ 山人シヤノヒト 淡路嶋フタツシマ 三島ミシマ
 越路コシノヂ 仙人セシニン 山賤カウ 瀧津川タケツツ 氷室ヒメ 山ヤマ
 山鳥ヤマトリ 山桃ヤマモモ 龍田川リウテンガハ 山梨ヤマナシ 蓬フユ 松マツ 山ヤマ 壺ハコ

余ハ准一ありんべ

○衣服之詞 二句を三句はくく 一句を二句はく

裳エス 小袖コソデ 衣裳イシヨウ 繻絆シユバン 白無垢シロムク 被カビ 袷アサギ 袂タテ 帷子カクビノ 紙子カミコ 衽ヨクヒ 襟エリ 褌ツツ 裾スソ 布子ヌノコ
 單物ヒトヘモノ 袖口ソデグチ 浴衣ユカタ 衣紋エモン 産着ウカキ 羽織ハオリ 褌ツツ 褌カウキ

此介不新是羽の物皆衣類也

非衣類詞

袞龍コンリヤウ 直垂ヒタレ 狩衣カリキヌ 素襖スオウ 襦袢ムツキ 奴袴サヌキ 袍ロウ
 大口袴ハカマ 欄ラン 小忌衣コヨモ 白弦シラハリ 緋袴ヒノハカマ 縊袴クワリ

綴ツヅ 宿直衣トクナヒ 祝イハヒ 淨衣シヤウエ 袈裟カサ 衲衣ナヒ 蓑ミノ 帶オビ

直衣ナラシ 上下カミシモ 肩衣カタキヌ 絆切ハンキリ 水旱スイカン 葛袴クサハカマ 水衣ミヅモノ
 十徳ジツトク 篠掛スノカケ 直裰ナホ 居士衣コジモノ 立付タチツケ 襟卷エリマキ

掲布カチ 帽子ホウシ 校初カクサハ 野袴ノハカマ 紙羽カミハ 脚絆ケツバン 股引ムネヒキ
 頭巾ウケキン 足袋タマビ 三尺手拭サンサクテヌグヒ 法被ハフヒ 褌ツツ 褌カウキ

道服ミチフク 羽衣ハコロモ 裙袴スソハカマ 禪ゼン 褌ツツ 緞帶イワタオビ 藤衣フジモノ
 禩キヤウカクシラ 素鞆ソロ 也喪服

右宦服祭服僧衣喪服礼服等

生る利せらる物皆非衣類

○水邊之詞

二句を三句に作る

蛇籠	筏	津	淀	海
水屑	樋	浪	渚	浦
濱荻	寛	泡	沖	濱
海草	流	潮	磯	川
須磨	溝	汐	汀	江
明石	井戸	沼	瀬	池
松島	海士	杜若	洲	澤
	漁火	瀧	浮木	堤
		島	淵	流木
		橋	崎	湊

菖蒲

貝類

釣具

魚の名

水鳥の名

漁の名

船の道具

辛崎の松

蓮 萍 藻

非水邊詞

天の浮橋	室の八島	鵲の橋	意の海
夢の浮橋	難波寺	布曝	蓮の上
白川の関	泪の淵	志賀の松	碓氷
月の出汐	軒の玉水	おとろ川	天水
		三瀬川	岩船

准

五十二

氷柱 宮屋 干魚 干貝 苗代 田 鹽

○夜分之詞

月 星 曙 宵 暗 篝 蚊 鼠 寐言

寐 枕 鼾 炬 塙 晚 銀河 明星 日待

七夕 横雲 稻妻 龍灯 鶉川 行燈 初雞

胡狩 寐鳥 燈籠 挑灯 燭灯 紙燭 燭臺

蠟燭 短檠 手燭 假寐 居眠 夜着 燈明

送火 衣々 深更 化物 幽霊 夜登 辻君

夜多嫁 蚊帳 草の枕 衛士の焼火

星をこゝろふ 咄入 住吉の市 星月夜

の時非 追儺 除夜

非夜分詞

鐘 泊 電 礎 虫の聲 三日月出 芦火

今日の月 朝の月 明をるれ 常燈 昼の月

暮クレの月

夢ユメ現ウツ

夢ユメ幻マホウ

夕ユフ月ツキ夜ヨ

有アリ明アカシ入イル

残ノコ月

余ヨリハコソレニハ准スクニモシクニ

○食シヨク類ルビ之ノ詞ジ

喰クヒ物モノ

ト

飲イン物モノ

ト

品シナ替カりテ

ニ句云ニ句云ク
一句云ニ句云ク

○旅タビ躰テイ之ノ詞ジ

門カド出デ

餞ハナムナ別ナ

乘ノ掛カケ

輕カヨ尻シリ

蒲フ團ト張ハリ

馱ダ賃チン

馱ダ荷ニ

木キ賃チン

跡アト附ツケ

水オホ陳チ

旅ハタ籠カ屋ヤ

出デ女メ

馱ダ賃チン

馱ダ荷ニ

泊トド女メ

宿ヤト取トリ

川カハ留トク

○生シヨウ類ルビ之ノ詞ジ

虫ムシト

鳥トリト

鳥トリト

獸ケモノト

獸ケモノト

同生類之句云
ニ句云ク一句云ク

虫ムシト

鳥トリト

鳥トリト

獸ケモノト

獸ケモノト

亦云クハニ句云ク
何れも之句云ク

○植ウエ物モノ之ノ詞ジ

木キト

草クサト

草クサト

草クサト

同云クハニ句云ク
一句云ク

木キト

草クサト

竹タケト

木キト

亦云クハニ句云ク
何れも之句云ク

藥灸鍼入湯按摩醫者等也

余ハ准一志一

○器財ニ器材付てもろくかたはたのり

武具ニ武具 家具ニ家具 鍔物ニ鍔物 硯ニ墨 文臺

武具ニ筆 棋盤ニ 庖丁ニ 硯ニ 墨ニ 文臺ニ

○支躰ニ支躰付てしるくも

顏ニ 能目ニ 鼻ニ 口ニ 取ニ 腮ニ

顏ニ 手ニ 足ニ 爪ニ 腹ニ 脊ニ 中ニ

○名所ニ名所付てしるくも

同ニ 國ニ 同ニ 所ニ 須磨ニ 象ニ 瀉ニ

伊勢ニ 陸奥ニ

○字去之部同字の事也

色ト云ニ 色ト云ニ 色ト云ニ 色ト云ニ 色ト云ニ 色ト云ニ

如此訓音カク 如ク 皆ニ 去ク

識成打來廻小餘
 燭猶浦○間○
 頓
 雙子音
 野遣振事
 虫上揚吹郁
 無登山深明先
 鳴鳴
 殘止心淺
 內上吳待比
 無上吳待比
 波憂雲又起
 並讞草迄和
 更相

掛忘置止
 袖方分追留
 外兼渡多通
 其飯割音外
 初侘小取經
 添吉力哉思解
 遣夜夕川落鳥
 着立多風押路
 付為替拆
 就絶通我
 外程幾出入
 邊經
 時花
 牙遠晴
 問果
 共張

まへ—馬目より表の
白くまぐらひ
花の定生 かこむひのひまふら着

他の季乃花

夏の正花 餘花 若葉の花 郭公結句 ホトトギス

秋の正花 花火 かきりこ花

冬の正花 飯花 花足袋 餅花 モチ

雑の正花 花紅葉 飛花落葉 トクエフ 結糸

余ハ句限りのうらやも有へ—

非正花分

花のぼりし 本名縹帽子也 花田帯 同上 はしがむあきき惟

花丁子 テウジ 湯の花 花野 あな 花壇 同上 糞の花 カウジ

火花 灯乃花 トモヒク 桑のまなが 端々 飴

浪の如 雪乃花 深色のまな色 藍の色 衣紙 鼻紙

ちあかじ 馬の鼻 花子の程 キウゲ 花町の親王

花園院 花頂山 花川戸 如此氏苗字人名官名 所名いづれも非正花

花王クワウ牡丹ボウタン

花の富貴フウキ同上

花の隠逸インイツ菊キク

花の兄ケイ梅ウメ

花の君子クニシ蓮レン

花の宰相サイシャウ芍薬セキヤク

六の花ロク雪ユキ

勝カチ遊ユる花ハナ海棠カイドウ

夕ユフ白ハク

三の花サン霜シロ

末摘花スエトクハナ紅花ベニバナ

花ハナうらも 真菰マコモ

四シ初ハツメの花ハナ紫陽草アザミ

花ハナぐら

紅ベニのニ売カ銭ゼンのノ異イ名ナをヲ

いろはあなふか

い

いと人ひととあはれあはれ いと淋しみ いとあがりあがり うれ

はれはれ うれうれ

いとけあきいとけあき

いとけあきいとけあき

いつさいつさいいれれささ

出出ささるる入入るる句句をを

いいままののここららののまま

沈シヅメのの面オモ

いいささららししるる

出出来来るる句句をを

いいままぬぬいいろろ

色イロニニ句句をを

いいままををきき

茶チニニ句句をを

不フ知チ

いいささららししるる

ろろううせせららししるる

むむののりり

ああららししるる

ままののうう

ままののああららししるる

ままののああららししるる

ままののああららししるる

ちりり初と一 さまうらとぶお
見三才ニ面を

ちりり初と一 林鐘
鐘の音

もまゆふ一 紙と筆をうらとく
のちくささあり

もまゆふ一 ちりり
わけとく

もあうの一 鷹の巻
わやめとよ

もあうの二句を
あう

み 菊一 二句を
下の句ハ

み 菊一 二句を
下トをトをトを

みけあ一 ちりり
あともあり

みけあ一 二町ト云

わ乃ぐ一 ちりり
一はニわを

わが一 ちりり
と

わが一 ちりり

わが一 ちりり

ちりり一 小袖と
衣敷と

ちりり一 ときめく
人々を

ごすれが一 ちりり
もゆれ

ごすれが一 ちりり
ちりり

ちりり一 ちりり

ちりり一 ちりり

ちりり一 ちりり
欄振

ちりり一 ちりり

ちりり一 ちりり

ちりり一 ちりり

ちりり一 ちりり

ちりり一 ちりり

ちりり一 ちりり

ちりり一 ちりり

おひくく 一 只巻の 一 楽 ふ姫 およの守 おめ 一 ちんちん
 おひく みく
 おりておせ 一 うちめく 白二伏二面去 おりのとこ 一 お女のく
 おどろく 一 おそ 一 ちのうき 一 赤きん 一 ちんちん
 おほ 一 おき 一 おひ 一 おひ 一 おひ
 おわとあが 一 舞舟のとも 一 おの 一 おの 一 おの
 おら 一 おら 一 おら 一 おら 一 おら
 おす 一 おす 一 おす 一 おす 一 おす

う 一 う 一 う 一 う 一 う
 か 一 か 一 か 一 か 一 か
 か 一 か 一 か 一 か 一 か
 か 一 か 一 か 一 か 一 か
 か 一 か 一 か 一 か 一 か
 よ 一 よ 一 よ 一 よ 一 よ
 よ 一 よ 一 よ 一 よ 一 よ
 よ 一 よ 一 よ 一 よ 一 よ
 よ 一 よ 一 よ 一 よ 一 よ

らん 二方去 為りハ 面去 らしらめ 日 乃

らんらんらん 二方去 二方去 去 去 為りハ 折られ 二方去

らんらん 二方去 二方去 二方去 二方去 二方去

むべ 二方去 二方去 二方去 二方去 二方去

むさび 二方去 二方去 二方去 二方去 二方去

うらト云 洞ニ 二方去 二方去 二方去 二方去 二方去

うかい 二方去 二方去 二方去 二方去 二方去

うさか 二方去 二方去 二方去 二方去 二方去

うげえ 二方去 二方去 二方去 二方去 二方去

うはく 二方去 二方去 二方去 二方去 二方去

のろ 二方去 二方去 二方去 二方去 二方去

くもの 二方去 二方去 二方去 二方去 二方去

くれあ 二方去 二方去 二方去 二方去 二方去

や 二方去 二方去 二方去 二方去 二方去

佳

下

ゆりふてふを 二句 ゆりふ 七言 ゆり 二句 ゆりふ 六言 ゆりふ 七言 ぬるあやホ 二句

ゆくと云詞 面云ゆき ゆき 七言 ゆき 七言 ゆき 七言 一海士の 持統

ゆれを 一詞 ゆれ 七言 ゆれ 七言 ゆれ 七言 一書

みと名詞 二句 みと 七言 みと 七言 みと 七言 一帯と

二句 七言 するせん 二句 する 七言 する 七言 ぬ 七言 ぬ 七言 ぬ 七言

しと 二句 する 七言 する 七言 する 七言 ぬ 七言 ぬ 七言 ぬ 七言

あ 一詞 あ 七言 あ 七言 あ 七言 ぬ 七言 ぬ 七言 ぬ 七言

あ 一詞 あ 七言 あ 七言 あ 七言 ぬ 七言 ぬ 七言 ぬ 七言

あ 一詞 あ 七言 あ 七言 あ 七言 ぬ 七言 ぬ 七言 ぬ 七言

あ 一詞 あ 七言 あ 七言 あ 七言 ぬ 七言 ぬ 七言 ぬ 七言

あ 一詞 あ 七言 あ 七言 あ 七言 ぬ 七言 ぬ 七言 ぬ 七言

あ 一詞 あ 七言 あ 七言 あ 七言 ぬ 七言 ぬ 七言 ぬ 七言

あ 一詞 あ 七言 あ 七言 あ 七言 ぬ 七言 ぬ 七言 ぬ 七言

あ 一詞 あ 七言 あ 七言 あ 七言 ぬ 七言 ぬ 七言 ぬ 七言

涉る草

涉る蚊

多し

涉る菊

秋九月十日の菊とひか

涉る秋

初音

涉る

秋の涉る

歌ニ音ニ

初音の分

連歌

俳諧

風雅

表語のた

情

後句

種冊

色

小

田

借

各

停勢の園

いせ曆

いせ海

いせ種

いせ初

いせ書

いせすり

かやうの教

初

東西南北

は

四

音

初

初

鳥の

七

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

虫の

鳴

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥一

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥の

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

毛

羽

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

四季

春や藤おちかたをふりて
秋を先へ一松源
冬は木に枯を塗る
かどをややむるのらるる雪の松

三物

里麻くふハ娘
月の家一巻づつ
おきく

のまをハ皆番張くカハ

貞富

貞逸

文佐

發句切字のこ

や	や	ぞ	う	よ	めり	あり	きり
さ	ぞ	あ	れ	こ	え	あ	の
い	さ	い	ざ	の	え	そ	も
らん	え	ん	せ	ん	せ	ん	い
い	の	づ	こ	は	ぞ	な	か
き	り	え	は	わ	り	こ	早

のぬ
を
あ
あ

裁の部

苗代のまにひうろく男少貞雨
 め死くと木魚の身さわろく阿州芳雨
 まどれは扇うきり異ろく米沢一鱗
 長濤は舟ぐ船の落葉多全
 乞食も日陰へあつる星もく其山全
 白菊に濡ても此の異ろく藤里
 志ろく八箇土も障止早も其木

やの部

早うひや極れこや一掌し牛上州下岡
 初まやいふく河に成すま全一芦遊
 人の祝言とととやお星湖遊全
 一雲流のどれれやふれとと桐直全
 志をわや舟に曲ぬ神全一孤遊
 陽をや殊く烟る濡上大塚一珊瑚木
 系舟や秋のまれの舟八幡山一船ト

清水と通て思ろくはくろく東山

石州ソウ

杉白やその田くの秋やろく文竹全

落葉葉のまにひあつる時雨全芦雲

全

一八や二八ふまろくむすろく竹遊全

湯清き戻りおのちおのち全万国

全

あうろく暮のたるくも横川吉井松且

友山は流石をまろくままか娛樂

全

茶屋や本町筋の小松時雨全古之

子とあふ園不來てろく浦ろく五出

全

号や探教ろく井戸の橋全笠雨

隠居も住み残りの落葉巴山

全

夕夕やカキまろく牛の尻全

魚舟の片帆懸りまろく可邑

全

秋まにけけろくあや草野扇山阿保邑

あつろく一寸号ろく柳風

全

まろくねらま探極や後ろく文里小林邑

切

八十四

隣も二筋にすち柳のれ鳥山富永改古くハ世日ぬけーの巻新宿丁子勇
 曇りのひらりぬ様小風光横登若や若うう巻と弱流松雨
 人の打子とをそおく踊り掌小串蒼名月や思花の戒もえんは危文哥
 目振方お松え巻お露お伴水長根立秋や若も珠の糸支友文賀
 多奈の肩もかきお紙系小池氏松童梅さよ隣うさあ風のを馬庭聞山
 糸をけせー中へ落系代風車岩井清き初露やこも以鐘の声琴山
 縁へうこころさうと牡丹お芦角西平井情うぬ女の舞や百合のむ淵柳
 鬼百合の巻を恨ての巻お翠路全七夕や風をえほく笹の巻悦山

大名の目よりと巻の八目お百猿全若月や沖おあひは海さ小船全芦英
 汐日お一日海お海の小碎蓮舟倉ガ起くの梅の白ひや巻お牛雞
 一葉もそ淋かきる柳お木山秋空梅咲や子巻お巻さうさう全文籃
 お巻さうさうあああ女錦秋巻巻や若うさうさう此の果イノ奇秋柳
 大名の巻具お巻の巻物お御遊全熱々の後うりりりや巻の梅全花隣
 日向漕舟の巻されさうお酒浪前ハシ乞食の果や若巻お巻うら全池鯉鮒
 ああ今うらうらさうお延山全烟中や巻の巻お巻の巻全盛賀
 全

消込お巻目やあうもの巻お市寶全

巻

小十四

蕙好^{上州七目} 釣浦 傘の雲をへや移さ首うを^透 透竹
 二つ三つ^{全八幡} 更出 心よりむらうも花や羽披者^{小幡} 魯州
 一群ハ菊おわりの^全 九阜 名月や新松の影おほひう^全 芦葉
 吹の梅風不夫の^{全前} 杉雪 昔昔や似合ぬ流儀の挽まう^全 芳州
 秋^全 扇風 蒲公や沢辺小舟ふ瀬の春^全 永州
 風^全 松露 夕影やたうる花のぬえん春^全 齊州
 落葉はく^全 松露 降るが毎おわや秋の白^全 東州
 淋^全 専考 松中や戸柳の園おほくの春^全 羊州

柳^全 旧葉 菊畑や手種の方と^全 客應
 森^全 盛山 蒼竹や意を^全 文子
 色^全 時交 葉のむや咲ひうて^全 魚
 初^全 胡統 涼^全 橋の袂う^全 斗醉
 志^全 亭松 煙^全 橋の影向や^全 芦鴨
 ち^全 好時 稻^全 思ひ所や^全 松山童
 枝^全 山童 菽^全 入や^全 山童
 枝^全 山色 白^全 浮世ありや^全 新石

中々大舞のりささく改八幡山 正竹

草のむらさき内中全 好竹

情々々草の葉に葉全 原月

仍事の海へおし新宿 芦月

白濁に才をかゝる全喜水改 曉山

あふれれゆふさ地多全 蘭思

四六日さううに全 柳糸

吸付おあまると上手邑 泉志

糸のうぶをけぬる江州 近山

蕨やそれ笑の面越後大夕 里風

夕まやまをさ石州ツノ 素兄

初林や世に接全 芦洲

王乙女や日毎上州高井キ 羨鳥

戦くくも水の秩父野止 其國

お傘の時面上郷 主原

夜宵のち照る上郷 月峰

あまの波の四前 管竹

迷ふれぬふ吐長根 全

あやめあく黒熊 桐

入おあま宇賀 霍昌

時々扇の動全 川龍

涼や隣赤鳩村 可水

色ぎささ山野地 山笑

葉の乃日野地 若元

月や日南部モリ 白翁

入おとの千代見改 三聲

白ひさ串崎氏 芦舟

群うりて金谷洞 虎山

新月や古活月舎 友里

床を友之 万壺

初雪や友之 友之

系友之 素石

今春の晴城化しつる野上	泰山	三膝や罍のわらこころ月其潮
むとんと南の香の日の極る	矢田 芦睡	名月や何處くさ紀小 琴吏山
濛濛るかろくあおとろく	吉井 松甫	初雪や下枝をさけりさくは千翠
一葉はく紅紫振り	全 岸松	雪解とむすふ雪と初時面 富旭
款松て懐入る	全 松川	夕立や後より及ぬ 渡牛
吹波に入口のくろく	全 保水	吹雪 減池の落葉や 初連牛
階をかきこりつる	全 初交	初雪や大門のわがくれ里 貞陸
冬 垢離の川場と	全 笠雨	足掻や雪よりうへの落る 若玉

今春の晴城化しつる野上	西平井 周盈	七夕の糸に初雪や 里鶴
水まきくあにきく	馬庭 里川	六くは城のあや 杜鶴 倫路
岩井 淵水	岩井 淵水	おろくはあや 龍子
枝川の雪も	全 笠雨	初雪の雪やいつの 龍子
松中	全 笠川	百姓の余情よとくや 龍子
藤	下大塚 梅里	紫雲の子 龍子
旦山	フナ岡 旦山	名迹の雪のあや 龍子
山慰	全 山慰	川筋や園を 龍子

梅

八十八

澄のまゝ色紙しそまらぬる全用和
曇りの夕武州熊谷東川全
淨福臨扇かして涼る武州熊谷芦碩全
わら内中火燧ハ全友至全
おを山と己う世唐き赤坂花江文至全
汐光のゆくらあくら赤坂お名赤坂貞宿赤坂
文科の香る高サキ星を秀木

ぬのりや移の高サキ秋穢半交兔
お鳥の九月高サキや八月高サキの風車
振袖お猫も高サキ狂や土用千其月
初らや高サキも高サキや高サキ眉高サキ其桃
くゞ高サキ風の高サキや高サキと高サキ一高サキ左木
き舞や人の命も高サキ家の内杜平
手に控る世の灯や高サキあ高サキの菊米甫
隠是高サキあ高サキ子高サキ居高サキき高サキを高サキ初高サキ然高サキや高サキ貞雨
これと控やとのく

おかり高サキ一高サキ鳥高サキの高サキさ高サキき高サキ山高サキ揚高サキ平湖高サキ
夕高サキ光高サキと高サキや高サキそ高サキ名高サキ字高サキし高サキそ高サキ菊高サキ藤巴高サキ
車高サキの高サキ筑高サキ波高サキハ高サキ低高サキ一高サキ杜宇高サキ一高サキ之高サキ
ひ高サキら高サキく高サキさ高サキを高サキに高サキ白高サキき高サキ糸高サキを高サキね高サキむ高サキ竹志高サキ
松高サキ新高サキも高サキち高サキり高サキく高サキ異高サキや高サキ蝶高サキの高サキ声高サキ艶山高サキ
秋高サキ涼高サキ一高サキ菊高サキの高サキ香高サキふ高サキ梅高サキり高サキ笠高サキ雨高サキ
引高サキ替高サキめ高サキ豆高サキ既高サキ落高サキ一高サキ和高サキ外高サキ流高サキ浦高サキ重友高サキ
お高サキら高サキ新高サキの高サキ梅高サキは高サキ林高サキ一高サキ水高サキ車高サキ竹雨高サキ

冬高サキ多高サキく高サキ紫高サキ山高サキ子の高サキ三高サキに高サキ法高サキ也高サキ芳雪高サキ
様高サキ干高サキに高サキ布高サキ子高サキほ高サキは高サキは高サキ後高サキの高サキ月高サキ松庭高サキ
玉高サキ味高サキ香高サキの本高サキ香高サキも高サキ又高サキよ高サキ一高サキ郭高サキ云高サキ橘高サキ栗高サキ
蒼高サキう高サキく高サキ空高サキう高サキめ高サキく高サキ世高サキ菊高サキの高サキを高サキ好高サキ采高サキ
あ高サキら高サキり高サキけ高サキり高サキ

おとよねおとよね白き一栞安戸東里
胡蝶の形ひも涼一もみ水活計堂雞歌
常糸あはれあり一藪の後友之長ハラ
風下りあけきり一瀧の表芦魚

わたり

新田ふ久と付りうかんフ子岡湖雲
ひ糸の帆ハ洩中より横吉井復児
あはれ

待をさし雪の日に果みうり深沢松岸
梅の風園に恨みありもる三栄舎牛
そ閉て扇の風もなうる三栄芦夕

あり

尻衣ふん去おたり桃井氏玄燈菴
ひあもすしおにありきの月万壺
一斤の雲に夢あり多千をフ子岡扇志
驚すえて夢ありも千阿州萩嵐睡

とろとめておぼいそをりフ子岡後む山稔
左法乎心には舞傘乃吉井和周
涼くさみ徳をそ紅れ池の端吉井松月

いこ

来いこ紅糸連の若め八幡山秀竹

おとね字

菊と閑人紙紙の梅の小幡秋空
名木の屋しおりの人屋の月宮寄幸成

あま

ひらいたすあてあ高サキ湖青

おと

星合れあおおむ米沢習谷

わたり

吹て来々本吉井松石
あはれすし雪の浮世と舟小幡素牛

あはれ

向

九十

川

高サキ 芳柳

全 有隣

高サキ 原翠

深沢 呼雪

吉井 里鶴

吉井 笠考

よ

高サキ 河月

ぞ

八幡山 東宇

乙山

の

延山

春旦

繁柳

高サキ 山賞

而醒

前ハシ 壽保

切字がりてあるきく

負雨

大ハシ 芦魚

前シ 過改

秩父 豊東

こ

高サキ 當屋

牛羅

早ぬ

延山

黒熊 竹倭

下知

米沢 伐柯

詞

九十一

紙漉のまのむらじ物し〜れ全竹文
 多物ハ約らむこ中云女家史紀遊
 狭野の結と花のた〜るまれの里水馬庭
 や〜とるれ〜す〜こ本も家史熊谷陰夕
 只ありぬ本後のゆきあま采乃山至全
 表れぬと〜と〜たれて初時ぬ貞宿フ子岡
 今ふむ〜〜風音ハ
 表れぬと〜と〜たれて初時ぬ貞宿

芳世人送れ様ハ風の子小嘴其朝
 万物のた〜ら〜中か
 こ〜の〜の〜の〜の〜の〜
 こ〜と〜と〜と〜と〜と〜
 蓮葉や
 人の〜〜〜
 貞橘
 柿の核

云〜時〜角〜の〜
 一〜て〜藩〜か〜の〜
 多〜和〜と〜凌〜し〜か
 跡和のあ〜ら〜か〜
 跡和〜〜〜火燧に
 表れぬと〜と〜たれて初時ぬ貞宿
 夢中庵
 笠翁

己〜と〜ま〜〜む〜の〜
 表れぬと〜と〜たれて初時ぬ貞宿
 柿の子れ
 表れぬと〜と〜たれて初時ぬ貞宿
 迷き
 表れぬと〜と〜たれて初時ぬ貞宿

四季

佐野 枕流齋

船の灯乃人さきゆく一棹月杜川
一掬ひ月もさかゆく清き水
後弦響つゝは奥助や生来高丸
そよふとも松の沙汰逐し秋の香

全

忍路や家の梅うま暗都山呉周
猿曳の猿もあま理の袷ゆ

全

こぼれさせて是も縁起る場のま一徳
推の本や猿牙に返れては若
風いさ豆腐の白小秋乃音
大石の火よくそゝる火燧ゆ

全

石枕笠籠物とゆゑを柳うる貞笠
一さげら夏の袷敷夕袷ゆ

上州岩井

そよ系や畔のすま月そ宵
并にさびくおねをさ雪野

全

子乙女六路くらむむお汐干は貞國
子を抱て人の袷や門もさみ
似るふく瓜にこゝて後の月
庭舎お役者もせりる露草か

全

峰のそよ白く別建ては袷か
傘傳りて袷か雪は袷ゆ

全

きりかきり今かきりそ山捲石之
松をさるに河原の所を初袷
稲妻の煙をふ松の本は若
船の香草味をゆする子老か

全

口明て始成るは千一の形芦邑
惟子の名をいふやあはれ
言白るむくむくう蕃椒
張きそ陳子も名をいふを筑

全

伊勢ありて七十の由飾作貞川
鳩鳩やあややくむれ古社
程程と居りもあはれは女前

上州平岡

重に人へもいふを千河若管
惟子とあや懐のやまの鹿
同じそに折るをう後の月
事の言自由にもふ合はれ

全

お山の言もききたはし初梅貞陸
あはれそは築築よすはは
一はくそは秋やあやううと

上州平岡

道方の傳もき方やあはれ程

全

まゐるや梅もあやあはれの名貞隣
園のうへに梅は消えそは社福
秋の言もあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

全

川音へ折まへりしむの山周賀

上州下大塚

行遠ふふの傳もきはあはれ

全

お梅や下羽折のうめは貞州
言もあはれあはれあはれあはれ
こゝかゝるあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

全

あはれあはれあはれあはれあはれ

上州平岡

兼思のこゝ孫袖もりの由桂頃
移はすのこゝとんきゝのむせり
改千へて舟でたふぬ川一水

全

上州下州
松のぬらひの目抽やむ思く芦波
淋くは成北てゆやがんと香
秋虫のまきと入うれ秋後の月
る土の頃風ふ清り枯せり

白くは霞きくく一蓮の心
淋くは成色なきかゝる者の
初雪やたふらるる山も思ふき

全

上州八幡山
あゝぬらひのぬらひはたつ
何れもくはたつゆやとんき
初雪ふくはるもたつた秋の海
夜もたつた赤敷とくく思ふ

全

南窓亭
橋小群つゝ女飛鳥の山芦相
白るや葉舟のかゝ秋橋柱
夕日秋松へ板や香るゝりり
秋引は浴をそと立や村を香

全

阿州
ちまき若く思ふ葉もくく思ふ魚千
思ふくおとくかゝや香るの峰

全

南見登
あゝ柳は甘らきまきのあゝく芦寛
葉木は葉を裏かゝる思ふ
秋文で思ふ子の渾もらきれをん
おりのあゝぬれもたつた秋葉

全

酔い子を思はし言れを梅のむ貞王
橋へ尻をたたくる田植うれ

虫の音に本系録る月夜
君のや懐心移る手一合

三物

拾花甫

まゝくともお祭と海と紅紫花貞里
入日ハ少月ハ夜をこり
系君れ所肩とさる懐碎

全

秋歌の星と星の別世
初音や鳥のよつ一はま

三物

一祖堂

いつと入るぬうとちかや江打戸
世おにせらる菊のひすお
秋と空と懐骨うけ照屋く

全

改換ハまゝくともお祭と海と紅紫花貞里

森酒ハ癖子成て涼し

水窓の月也君子の美を帯

全

上州八幡山

おわれか舎住にうつるや麦畑桐船
訪を移るも余琳と類杖
水窓の月也君子の美を帯

全

呵られは移るも余琳と類杖

新酒の波の歌を吹き

一瓶の手際紅紫花のよそ

全

上州八幡山

隠家のいづれも萩花松花
垣のり中うにかがむ文歌
翠の曲に舌の思ふぬまのり

全

さあやうなるを桃の酒全 芦雁
於葱菰乳母うかいまを
常のあやうなると参る

全

笛をに曲りし緒を初あり全 芦笙
体人の望の形ふ埒冷
月と待顔向煙吹くも帰て

全

山家の序くれ功てや秋の月全 弘山
秋つけるにたす秋能虫
あまの秋に位取とあやう

全

二人来てせうり飲ぬ形茶や桐栄
塔の間にまやくまう六梅
てらくと窓の外の筋遠て

全

おむやあそむもくれぬ夕糸色塩平 松閣
窓に立係ふ夏の湯揚
沖の船まにあやうに揺るて

歌僊

風志

又後しれはるかまゝま田井
揺るる牛の角に初蝶貞山
帘いと行人に無ありま 常仙

舟と漕ぎあそぶの女や松良一 芦魚
撥笄の先へこんはらう
名月の秋まはるしは市出て

哥仙

二ツツアをと熱味の煙川友里
秋冬をまき暖のそ 芦管
歌れぬも友と藤のま後て 芦邑

ありのに折る鼻紙の帯 有佐
 淨瑠璃も涙滲ふりき世の月貞屋
 茶の約朶も静寂の聖執筆
 家おて、海客僧の誓南をえ 貞山
 世も名なきは笛の一人 風志
 ありあけとてと現にまきばり 有佐
 かのさる白の泪落きり 常仙
 日笠は猶へくると縁よ成 貞屋

瑠璃りく村の子うあ 貞国
 風呂吹に吹きて月もわん 芦管
 笑くと斗智あやくれ 友里
 振向をたせ堂屋へ融かす 貞国
 女の志しぬ非の接引 芦邑
 衣袂と天窓を並て十文 友里
 坊師の尻に半に弟外 芦管
 雪の暗人とたを子につれさる 芦邑

拍うつら高かすこの風 貞山
 川夏の骨かき返や雪落の雪風志
 百才あるは雲の遺物 有佐
 りやゆひも非も花も若月 常仙
 松も整れぬを枝は遠 貞屋
 中かどむ院を捌き塔の下 有佐
 月代も若く春風をゆく 貞山
 園結の心かろくは生を風志

柳もあふくと春風を掛 貞国
 母秋の気の新しき帯 友里
 窓をとぬくと大花は曇 友里
 村くれを春風流のこえはり 貞国
 勅定はゆにを物乃送 芦邑
 月如のほろりめく栲括は 友里
 度のはひり古くは 芦管
 学寮の柳も塔の影を若 芦邑

二人南園ふ西に邑形の云常仙

南を望むれば遠くは嶽の色貞屋

先を立かて離れとてせ有佐

深川もさひすつせ八波の尖貞山

結下の氣もさお海鏡風志

あんとつ鏡とばすもあひぬ常仙

舟で韓紙とぬる何様貞屋

埃溜おられとそ何古かろそ有佐

古美町へあつてのりゆり貞国

はしくともる程にたまき菅

夏に流ぬらふ由事と友里

流夏の果うまゝとて又柳貞国

彼雨りのむらうき菅

ふはたふきのまゝとて中をん友里

何れもあそとよそを放る菅

はまの地をた易名に立て菅

塩と傳り合壁田子躬常仙

月の名よそそ地への風有風志

味よあつふ埤の長貞山

ま^波理くまの尻の捲く如く貞屋

くんとまゝぬるの侍袖有佐

赤俣も又道されたるを常仙

此身に京の独る平鏡風志

あはれおれとすも木のた貞山

六日の月の法よなり初貞国

相の紫と起てはたし菅

あの子波美の葉山子流る友里

岩柳食のむせり金と流る貞国

まぐり流るすめを流る菅

躬漏や紙漙の町の氣ゆき友里

流て初る流る捨の神菅

お堂家くぬねは伊勢曆菅

朝のこま澄せしる時

時とわおたまたみ因雨

手の判ははみかきるか合者芦翁

あつた或意ふひる一徳

秋のふとむる花の山芦翁

運道えつてかき果る

哥仙

上州岩井連

おとせふる裏へあつむ量り貞笠

打出にひる花くそ妙子

獅子の足に秋の露の南を流す夕

中たるとくとの標をの影の文里

ゆるるおと胆でさく入る且山

やうと半も紫く中のみ貞賀

長閑をそと持のまがり貞笠

哥仙

紅葉のあつたひるお妙子貞鶴

怪子さつる破碇の机貞山

丸合羽着うらふれ不偏好和

彦すうと為と附て出れ松仙

こす月の氣の祥きる後益里川

律のあつ人の低心慈並執筆

秋茅のまき姿形ふ産と危淵水

仕あひ帯れ端と物せする里水

かつらうと秋意時おあひ光松鳥

勢のすむは春の夜る芦翁

吹うとあつと不眠秋も月おけて貞橘

波もゆとくお拵ふお唄貞國

表皿と流しやんもはうと貞雨

彦振葉うとてのり貞玉

杉極とそそ夜のるそ仙ある芦翁

成り子仕立て正月と物貞鶴

大名のあつと海とふる海と上雨

坊むく町のあまきさく次里鶴

子あまの持へるく占橋

能道に本履をきり次第自惚琴山

船の月花柳の空む杜あ貞玉

禿法師さす袖の霞ひ淵柳

何冷まふとまふ春襟其貞國

かまのくは後おとる月を青松仙

春の程の送者かありと振て右貞鶴

虫物おきて虫に拂うる好和

二階庭敷へ上る衝立之芦翁

り花を若く戸の後加減貞笠

夫さけゆの春もあま白拍子貞橘

北山湯治のゆるれへ入桐翠

口を吸きそれを引て見貞國

おまを南洋人と連成り里水

踏ささるはあまのあ貞雨

軽く若日ハ草の夢執筆

せよひひまは持びてうゆる芦翁

名ヲ 七人の火の跡の夢を煮て書琴山

名ヲ あり切てお松島もあは是を我貞玉

おまを髪のかくこわるく松鳥

整白くくゆるあま貞鶴

意すてふを後うへは髪留ひ淵柳

うそをまき女衛う着れ持松島貞雨

さゆへ枕の中へきき横淵水

娘のあまの刻鐘を持貞橘

一間はく涼くさ波る表へ里川

かゝる時上戸の陸へ雪れ中貞玉

あまをさへは道の紫うよん貞笠

乞食の眼く及橋の下貞國

澄き壺と濁くをたああれり好夕

十分に菊も咲きて後の月貞鶴

夕於子年此年の身あり里水

栗と後次再不せり 橘

あや木若れ月へおる白の香 桐翠

百姓の胸ふくくえる秋の風 芦翁

うみ亭の湯る直袋乃の川

死揚婆の笑影見ふ 貞雨

嫁の香を結とくひる後ひ 里霍

空雲の足代初に初くれ 貞玉

けのと思へた程りき 秋淵水

竹輿で遊ばぬのあふ 貞國

名ウ 宗介の如きをわに漕籠れ 桐翠

名ウ 子乙女の一人は、来る時法ひ 貞雨

伊勢路へ入ると冬む 菱栲里霍

魁之翁とてよる神吟 貞鶴

丸葉小孫と被せは人も 立淵柳

檀弓は徳を傳て守の白 貞玉

吐上りて海よりと 交松仙

風のあひ日、海の名平 芦翁

見友にむのわくし 此のうと 松鳥

来もも二交、海ぬかの因 貞國

竹根娘死のう後以 短冊琴山

表城とて之を 藤原 貞橘

半哥仙

半哥仙

濡る鳴葉うらや様のかり 夜木春

死のうのぬ眼や心付 九良 貞雨

百姓の地は 餘り川 稻文耕

尻むとくぬ死る草の上 芦翁

生疎の酒罎にふつう 貞里

危化り大工人 是百千名

捨つひふ並汚通 禪木春

経うつろ 終疎ま 是れ

今初に考をりして月足客文耕
女引西丸に括の括はる貞里
私凡此吹不付ても婦の里文耕
お見にいもれぬ先のみ根貞里
の跡のそを括ひー根不判木春
瘡い何けてす町も息文耕
る多きに介るやうある杜能貞里
床下うくく堀半こふ木春

沈むる月と採行の門
るりらるるとかーう時出たは翁
悉くこれの屋をあらふて秋を知
ふあまうふ章を付く貞菊
志くぬひのば後法と成かろ
里又此の拵お出る芦翁
市色る喧囂の中に半床て
長生坊のまゝ是か人なる貞菊

よりかき解いあまのくきの倉貞里
字添志れやうふい入相文耕
母少一痛とやてあ若の齋木春
新目一八怖い白を詠の袖貞里
月歌にむ表の後むをー木春
蕨の拵小柳一つ多き文耕

松栢の尻に月を落流く
河崎喜次調子合をる芦翁
茶後り推危教う秋のこれ貞菊
若のふと引虎若う知恵
翁小柳の尾もも齋若のむ終葉芦翁
こみつがひよかこすまが格ふ

半哥仙

半哥仙

熊笹も水字とありぬぬ月面芦泰

沈のを教てある情吹うる雨山

名と虫とをましく編綴 芦翁

初つそりと市の文書 柳子孫

箕あふする程をよ次に元 芦泰

二ヶ月小丸命よりき 小蓋

相棋の喧嘩秋の障癖 芦翁

淋 いりやうと清村 松葉

露と掃出 深へこの度

人笑の雪とつうんで旅 衣 芦泰

柳のこすえ 掃出 秋風 貞山

月もまや 大蓋に志 柳子孫 舟

靴のたきのうい 待合 錦山

名り 吹入の拍子もま 袖 圓山

志く 浪目 目のかみ 貞雨

本号とて 和者 斗れ 友木 貞山

竹輿とて ちめて 医者 虎山

大名と産をこあつて ぬきり 錦山

女に不法をる 瘧の定装

女と人の目 後口をばくしうせ

そり 打ちも 地震 ぬきり 芦翁

羽卵に奈の湯 及ををむの由

蕪好く 月 ぬきり ぬきり

うのりくと 奈をぬきり 射花 芦泰

祿直の杖 泣く 文の 葺き

釣舟の首に かくら松の 声

初日の中に 松 別る 者 芦舟

吾馬を 車に 乗せて 冬 貞雨

秋と 雪の 目 とき 月 圓山

穉人の 地獄も 志く 次 貞山

まかりぬきり ころ 入 匠 法 貞山

休 改う 此の 穉を ぬきり 芦舟

志る れ 坐 友 後 瑛山

荒法 師 杖 刀 葺き 松の 声 と 貞雨

法装の足さきをるる陸電芦翁

半哥仙

祥林の睡れそへや杜多圓山

破鍋小破小鐘の虫千貞山

判刀の抵か素むくと吸付天貞賀

深林仕蕨の雫を文書桃里

冬用月に雫子もまきれ虎山

指紋結て目安まうりる貞雨

あふくちのゆるる山門圓山

半哥仙

おそ今世の深きほ梅の思栄松

あ緑きくれ嘘寝くれ芦翁

帆もあ松の横より車馬等て

家くちり村井の裾栄松

すうりくと梅満て蓋はなせ

目にんぬ秋と下戸のち筋芦翁

神風と雫のそりき撫しする貞山

傘うゝ傘の條の宿のへ圓山

あまの田家おし女の産連て桃里

白もあふひみ代をを松貞賀

むらぎの老徳のあ有る山貞雨

ぬとあふるあふするい鹿山

文藝家あふのまねるるなりき貞賀

あする増りしうふ夕月桃里

遠て奉る鏡子これあ馬あ信り

紫花の雲はとの梢吹栄松

あまめはあぬううのあふり

お南切てあふり又添ふ芦翁

物あけと巻あふの袖うら風行

魚付食張飛脚よそい系栄松

あふるるあふるのあふり

菴と遠あふる月をるる芦翁

海の邊のりりて目も白なる 虎山
おぼろ人おぼろくもる 貞雨
茶の竹のりりて力もく 圓山
垣の南にふむく系北貞山

半哥仙

夕阿政

井戸邊の水節とある笠の影
和光の暮とある以飲冷米松
所車と一枚あるむの山芦翁
これも福寿の種のみ系栄松

半哥仙

林氏

鷲子の暮の角に九秀の米成
かゝる猪きなる松の風
梅の酒と酒と香ももも

百姓の夕飯時と目も介素勇
風の向るはれも手控金
子細とれ十手に帆とよて

お力持のふれ脂きりり
おとんと来て飛越す月の際
お 牡丹に若かりのむ
遠れらる我おすもや返り
ゆと吐きり舟名中
粒珠の紙布がわが目打弁
ゆ袖とよて藤巻とゆる
蝶おねい萱菜のむりハ

望遠の好む人の大花
お丸の二升の紋の飛りあや
扱もよきにけりて常目
紫昌の岡の五、六升系はて
乳おに出んのもま松の意
婿さの強りて足さる腕の精
娘おおねい歯と仕懸る
赤小とサシくく湖あるの門

まのゝきをにまのうきめを
本陳八はくは案の幕と打
る古ふかそりる今沢の乃
深志松小接て候ひ月
味香と焚中へ張あす
むすむの向ふに畏り
あふ自りて居る類父入

半哥仙

まのいづのちを石町の後
初穂小判とあせてたてり
辰松風に味を結や
幼高と余ををふか
落のり刻る地着入の
月おの時もまのぬ接広取
小袖をまのぬを死たき

半哥仙

初原の糞にいとやの海 松原氏 貞州

月おか松
とまし猪り着あす候て
かこそむ人の懸ひまを
本丸八十八町の署の重
盤にすりまの草外
むを接てまの拍の夕嵐
うんごうをふ法の燈火

斧でうりぬきおのま 上浦小幡 芦門

庭をまのぬ教のさり 貞山
向ふ猪押務人の接りしん 貞洲
山を越すは夜所飲 芦門
まのりやまのぬあすの月秋空
まのぬ接あすの嵐火丹雪
大園の脊中教ははるあす 芦門
人生をすまのぬあす 報

大目出ても袋一人が守らん
 ありかー葉夜の世中
 八尋の雲族にまきくまの
 空の下公の菴の初雪
 神風とちりきりの松の風
 ちりきりきりきりきり
 まね起てまね起て焼杭
 夢てちりきりきりきり

幻者のそねもあんなるさ
 雲向の獅子の床にあり
 中飛車に持てまねた藤を
 法不れ裏すしき松を
 ぬらぬぬらぬぬらぬぬら
 一掃ふまきりのとねの声
 品川とまね人の群

舞堂の旭の影のえりて亮貞屋

袖あり一羽織交りてまねる貞山

半哥仙

上及山名
菊水堂連

常の海り物のかもるる若橋

まねるそよ風の影に泥色菊要

川付のそよ風影のえりて水荷

葉と入あかりと水巴

二三里まき若にあま月秋水延

桶のちりきりぬらぬら

笑罵かうくくく笑罵のこころ

首尾

猿啼て枕淋しれおねるる

まねるそよ風をたねる園の戸

酒の海草れ打り影りて

まねるそよ風をたねる園の戸

考後の吟も中のかに出来水亀
 大門をまゝくと秋の室中と菊罷
 酒のまゝにほお志のけき水羽
 眼をみり切投てまきまゝの菊山
 半のきてある寂の傍水荷
 掃くまゝをある掃き清水延
 汗をかき後後ハ経おまゝ菊要
 浴れて菊は浴りりの露屋の芦橋
 耽の肩も元言は信帽子を
 法園のせれと八本徳の奏芦翁
 車に熟ね虫の継く卧牛
 所云に行進と休合意や
 此歌忘れす呪の息芦翁
 勢も羽と伸長采るを卧牛

かんやうとるもまゝの龜云水巴
 願者りりも六も吼りけり水亀
 和をき養養と名を相伴菊罷
 花の菊をねらて担着は清水羽
 手紙うらまをきもあま閑山
 裏白
 松柏ふあそハ室ねるるの月
 暁の肩も元言は信帽子を
 法園のせれと八本徳の奏芦翁
 車に熟ね虫の継く卧牛
 所云に行進と休合意や
 此歌忘れす呪の息芦翁
 勢も羽と伸長采るを卧牛
 表白
 暁格子要三柱も常盤小徳山
 後口はまゝく生るる天
 茶坊主に大りれ文を捨てて
 猫の寐てある常盤の側
 かくはく雲に隠るる帆子船
 遠と揮ふ我も月もまゝ
 東氏

松柏の目かまをと
 とれ

舞の富貴やむのつけぬ澁柿庵貞至

懐故和風の氣をいつくも若翁

あつむの足は麻の履をれて貞屋

旅も後のありて跡附湖船

ふ巻に古祝の端の理をほし芦翁

ふれ風を命をうりされ貞良

先陣は跡で後陣と入整り湖松

千代菊代に花い蒲鉾貞屋

河原で歩む河津の葉

秋さひいほ遠懐も生れつき

下あの家情迷さぬにあり

田楽はいつの流より瓶色

和信丈八のまきと出出る

一ひなて半町中花曇

岩の嶽も口入りの門

四季

星川

あを吐て雲霞にせざるお松山貞至

宿のこぼれてゆきり雪の降

落葉をて扱ひ流りて秋の産

乞食うしんか初め小秋時あり

亦

行届く妻の心やむ大根貞賀

海棠の欠落るふ梨のあ

初夏の秋の句

牛の巻牛に

川つらく松渡

不ようくうりま蒸に扱ひる露の貞山

目や水鏡等にけりてる花さ

腰懸るさくさく巻きて梅の

髪に流れまきほれ露の光

又咲や花もさうけけし花

提菊や十二初この流きり

むてくは仙氣の流るるを梅姫
仲や風入のふらるる時うら

流るる梅のよもやうに梅柳之を

雪のふり多利く初冬は貞屋
梅や己う夏を梅柳

水仙の冬家のよはに梅の

奉納

雪のふり多利く初冬は貞屋

江戸本町一軒店萬笈堂 英大助 蔵板俳書目錄

○類題之部

俳諧幾句五百題 春秋庵白雄房撰

小本二冊

同 新五百題 田喜庵獲物撰

中本二冊

同 新々五百題 全撰

全二冊

同 名所千題集 全撰

全三冊

同 今人東風流 洞海舎涼谷撰 具庵一具校

全二冊

書目

同 十萬句集 全撰 全校 全四冊

同 續故人五百題 一具庵一具撰 小本二冊

同 類聚 八朵園寥松撰 中本二冊

俳諧新發句類聚 全撰 全二冊

俳諧發句類題 全撰 全二冊

同 古今撰 蕪菴蟹守撰 中本二冊

四季發句帳

白子十五三 州丸大人輯 全一冊

俳諧發句新類題 六合庵万里輯 中本二冊

○句集之部

其雪句集 一称玄峯集 全二冊

其角句集 坎窩久藏撰 小本二冊

蓼太句集 全六冊

吏登句集 全一冊

巢北句集

全一冊

完来發句集

全二冊

梅翁宗因發句集

小本二冊

無發句集

存義發句集

獅子眠發句集

柳居發句集

糗糒瓶

甲斐州九集之

葛里句集

在句の集

護物七部集

○季寄之部

意の棊

葎雪庵北元著

俳諧手挑燈

一名俳諧初心手引草

同 掌中小本

俳諧四季名寄

季名寄大成の要目、且名寄と附録あり

俳諧袖鏡

寸珍一冊

季寄便覽

一枚搦

いぬ

横本一冊

俳諧通言

小本一冊

○文之部

新編俳諧文集

當時も季の人の文とありむ

全二冊

袖定規

表俳諧定座変体之図

七於集りの亦古物俳諧の变化ありを定座とて之を引合せ
圖にして正風俳諧の自在と一目より見やるとしむ

俳諧鴈

自初編今天保迄至凡三十編

○掌中寸珍物

海数あり自今修り
集州とあり

掌中五百題初編

集州

初編

同

二編

集州

二編

三編

集艸三編

芭蕉叢句集

集艸四編

其角叢句集初編

集艸五編

二編

集艸六編

三編

集艸七編

嵐雪叢句集初編

集艸八編

二編

集艸九編

乙由叢句集

集艸十編

蓼太叢句集初編

集艸十一編

二編

集艸十二編

新五百題初編

集艸十三編

二編

集艸十四編

三編

集艸十五編

古今撰

集艸十六編

書目

五

猶追々出刻

○假名遣物目錄

万葉用字格 春登上人撰

万葉集とみすまはふみすまはのちりまを正任とす且何葉
何の五兩とゆに

尚占假字格 山本明清大人撰 懷中 折本一冊

紙記万葉の古辭のゆゑと辨

今占假字格 高井八穂大人撰 全 全一冊

古うねと今うねと合せ一目にす是回と一ぬ

對照假字格 長野美波苗大人撰 全 全一冊

上にかあ

定家ゆゑ遣 新校 小本一冊

音便假字格 春登上人撰 全一冊



本多氏所藏